



www.yokohamaymca.org/AIDS/

テーマ いのち ～市民が続けるAIDSへの取り組み

2004 (第11回)

AIDS文化フォーラムin横浜 報告書

2004年夏のフォーラムは、過去最大の盛り上がりとなりました。1994年から始まった「AIDS文化フォーラムin横浜」が、2004年も無事開催されましたことを、皆様方に感謝とともに、ご報告します。

第11回を迎えた「AIDS文化フォーラムin横浜」が開催されました。

このフォーラムは、HIV/エイズに取り組む市民フォーラムとして日本で最大の催しです。HIV/エイズに対する社会的関心の薄れる中、8月の横浜は熱く燃えました。

オープニングは、飯島愛さんをゲストに「飯島愛とエイズ、愛、セックスを語ろう」で盛り上がりしました。また「夜回り先生」の水谷修さんの講演会は、多くの参加者の共感を呼びました。



■目次

2004年の概要と特徴	p.2-3
プログラム一覧	p.4-5
発表	p.6-34
展示	p.35-41
フォーラムの歩み	p.42-43
アンケート調査から	p.44-45
フォーラムの考え方使い方	p.46
フォーラムを支えた人たち	p.47
2005年予告	p.48

■コラム

・なぜ、いま、若者とエイズ	p.7
・共催ありがとう、神奈川県	p.9
・インターンシップで参加	p.13
・参加団体からフォーラムへ	p.25
・世界とエイズ	p.31

■開催概要

- ◇名称: 2004AIDS文化フォーラムin横浜(第11回)
- ◇期間: 2004年8/6(金)～8/8(日)
- ◇テーマ
「いのち ～市民が続けるAIDSへの取り組み」
- ◇場所: かながわ県民センター
- ◇主催: AIDS文化フォーラム組織委員会
- ◇共催: 神奈川県
- ◇後援: 横浜市、川崎市、横須賀市、相模原市
神奈川県教育委員会、横浜商工会議所エイズ問題対策懇談会、第7回アジア太平洋地域エイズ国際会議組織委員会、エイズ予防財団

- ◇運営組織:
組織委員長(山根誠之・横浜YMCA)
・組織委員会(横浜商工会議所、横浜いのちの電話、横浜青年会議所、横浜YWCA、横浜YMCA)
運営委員長(岩室紳也)
・運営委員会(医師、保健師、教師、大学生、NPO代表者などのボランティアで構成、14名)
・事務局(横浜YMCA 高橋亮 大江浩)

■2004年フォーラムの概要と特徴

◇過去最多の企画数で最多の参加者数

今年は、発表企画55、展示24、パーティ2、他2 計83企画で過去最多の企画数でした。また参加団体数も66団体(個人)で最多、そして参加者数が、のべ6,031名となり、過去11年で最多の年となりました。(昨年は、4,624名。今まで一番多かった年は、深田恭子のTV「神様もう少しだけ」が社会現象となりエイズへの関心が高まった1998年の5,694名でした。)



過去最多の企画数

—83企画

最多の参加者数

—6,031名

◇オープニング「飯島愛とエイズ・愛・セックスを語ろう」

初日のオープニング企画には、若者を中心に定員を越える参加者がありました。多くの立ち見ができる状況で、途中で入場制限をかけるほどでした。会場内から携帯メールを使った質問を受けるといった斬新な手法は会場者アンケートでも若者を中心に好評でした。(一昨年のマラソンランナー・有森裕子さん、昨年の脚本家早坂暁さんと俳優鳥丸せつ子さんに続く、有名人オープニング企画が定着しました。ほとんどボランティア状態でご参加頂いています。)

◇展示場が人であふれる

展示会場の雰囲気が変わりました。資料展示などが中心だった展示場が、映像・音楽・ポスター・Tシャツ展示など、人を引きつける会場に変わりました。かつては発表会場は人で一杯でも、1階展示場は比較的閑散としていたのですが、金・土の2日間は、展示場も人であふれ非常ににぎわいを見せたのが今年の特徴でした。(展示場来場者:8/6 1141名、8/7 986名 8/8 384名)

◇若者主体の企画、若者参加が増

運営委員会では、先進国で唯一感染者の増え続ける日本の状況を憂慮し、昨年からは若者へのアプローチを強めようとしてきましたが、今年は、横浜市立大学医学部の学生や国連学生連盟、東京ビジュアルアーツなど若者が主催する企画が増え、運営委員会でのテーマが確実に実を結んできたことを喜んでいきます。また「飯島愛」効果も見逃せません。



◇国際関係NGO企画が定着

一昨年からは国際的なNGOに参加を呼びかけてきましたが、今年は完全に定着し自発的に登録してくれるようになってきました。また新たな参加団体もありました。(国境なき医師団、国境なき子ども達、ジョイセフ、アジアの女性と子どもネットワーク、日本赤十字社、など)

◇企業のフィランソピーとして

企業理念としてAIDS問題に取り組む「The Body Shop」と「MTV Japan」がコラボレーションで参加してくれました。新しいタイプの参加形式です。映像と音楽、写真メッセージそしてハンドマッサージなど斬新な手法で展示会場を盛り上げてくれました。

◇医療関係のプログラムが好調

全国の医療、保健関係者、特に地方の方々は情報不足に悩んでいます。今回の医療系・保健系の企画（「即日検査の実際」「エイズ治療最新事情」「HIV/AIDSケアコーディネーターナースの活動」など）はどれもにぎわいました。九州から始発の飛行機で来て参加していた保健医療関係者などもいらっしゃいました。

◇性教育関係がやや慎重に

一部の新聞などによる「性教育バッシング」がはげしくなり、従来参加していた性教育関係の団体が疲れてきている印象をうけました。フォーラムは様々な意見をニュートラルな立場で受け容れる存在として、性教育のあり方を考える場所として、「各新聞社の記者にきてもらい対話の機会を作りたい」などの運営委員会企画も考えましたが、今回は実現しませんでした。次回への課題となっています。

◇ボランティアの充実

今年も約70名のボランティアが関わってくれました。今年の特徴は大学生・高校生・社会人が、インターネットなどでフォーラムを知り、自発的な意志で申し込んでくれた人が多かったことです。非常に熱心で、運営がとても楽になりました。感謝しています。

◇新規の参加団体が増えたこと

今年の新規参加団体は10団体（個人）、初期を除き、過去最多です。常連さんも頑張っていますが、新陳代謝が進んでいることでフォーラム全体に活気が出てきています。ホームページ上からの直接申込みが増えました。

◇ネットワークパーティが大きな盛り上がり

初日のボランティア（中学、高校生など）を中心にしたティーパーティも盛り上がりましたが、2日目の大人向けパーティに54名が集まり、中華料理屋の2階が抜けるのではないと思われるほどの盛況でした。参加団体、HIV感染者の方、新聞記者、一般参加者など様々なメンバーでした。

フォーラムの役割が、発表の場だけでなく、ネットワークづくりであることが再確認できたパーティでした。

■最後に

今年は、過去にない多くの参加者を迎え、フォーラム飛躍の年となりました。社会的関心が薄まる中、逆に唯一といって良いほどの盛り上がりを見せるフォーラムへの熱い期待を感じます。多くのアンケートに「続けてください」「もっと発信して」というメッセージが寄せられました。HIV//AIDSに関わる方々の切なる願いです。来年は、8/5（金）～8/7（日）の日程で、同じく「かながわ県民センター」で実施されます。横浜から全国に熱く発信し続けたいと思います。



過去にない多くの参加者を迎え、フォーラム飛躍の年となりました。



<2004 プログラム案内>

「2004 AIDS文化フォーラム in 横浜 プログラム」

テーマ：いのち～市民が続ける AIDSへの取り組み

*入場無料 (全て先着順です。定員が切の際はご容赦下さい。会場下の () 内は定員)

*プログラムによっては、プログラム内容をより深く理解していただくため、対象者を限定するものがあります。

2004年8月3日時点での予定プログラムです。当日のプログラムの変更、日時、教室の変更もあり得ますのでご了承下さい。

会場	10:00～12:00	13:00～15:00	
ホール (260)	ホール	夜回り先生不登校、ひきこもり、リストカット、薬物乱用・夜の街で生徒と向き合った教師 (水谷 修)	■エイズ基礎講座(治療は今?)406号室
301 (90)	◇開会式	10代に知らせたい! 性感染症とエイズ (性を語る会)	■エイズ基礎講座(治療は今?)406号室
303 (30)	◇オープニング企画	医療系大学生1年生 何も知らない私たちへ今 HIV/AIDSを考へるー (横浜市立大学海外医療研究会)	■エイズ基礎講座(治療は今?)406号室
304 (60)	飯島愛と エイズ・愛・セックスを語ろう	在日中南米系住民のエイズの現状と対策方法 (NPO 法人 CRIATIVOS -HIV・STD 関連支援センター)	■エイズ基礎講座(治療は今?)406号室
305 (60)	■エイズ基礎講座(全5回) 会場: 406 (毎日 12:15～12:45, 15:15～15:45)ではエイズを伝えるポイントについて簡単に解説します。		■エイズ基礎講座(治療は今?)406号室
403 (60)		一緒に読もうベビーキルト (ABCキルト横浜)	■エイズ基礎講座(治療は今?)406号室



■エイズ基礎講座(全5回)
会場: 406
(毎日 12:15～12:45, 15:15～15:45)ではエイズを伝えるポイントについて簡単に解説します。

◇ネットワークング・TEA パーティ 8月6日(金)18:15～19:15 301会議室

会場	10:00～12:00	13:00～15:00	16:00～18:00
ホール (260)	文科サイドと厚労サイドの連携学校教員と地域保健担当が行う授業運営の実際 (安藤晴敏・岩室紳也)	中国のエイズ危機 (AIDS&Society 研究会議、共催:第7回アジア・太平洋地域エイズ国際会議組織委員会)	
301 (90)	専門病院のHIV/AIDSケア～コーディネーターナースの活動～(国立国際医療センターエイズ治療・研究開発センター 池田和子)	性感染症の現状 (今井 理恵:港町診療所婦人科)	■エイズ基礎講座(人権・共生・いのちを考へる)406号室
303 (30)		セクシュアリティ入門～性教育の基礎～ (LAP :ライフ・エイズ・プロジェクト)	■エイズ基礎講座(人権・共生・いのちを考へる)406号室
304 (60)	AIDS出前授業 ーこの10年から学ぼう! (1) (横浜エイズ勉強会)	AIDS出前授業 ーこの10年から学ぼう! (2) (横浜エイズ勉強会)	■エイズ基礎講座(人権・共生・いのちを考へる)406号室
305 (60)	国境なき医師団:派遣ボランティア医師 ウガンダミッション活動報告 (国境なき医師団日本)	PWHの社会参加再考 (AIDSネットワーク横浜)	■エイズ基礎講座(人権・共生・いのちを考へる)406号室
306 (30)		あなたならどうする?! アフリカエイズ紙芝居を使って①(ジョイセフ[家族計画国際協力財団])	■エイズ基礎講座(人権・共生・いのちを考へる)406号室
403 (60)	CAP おとなワークショップ (エンパワメントかながわ)	性と生を大切にできる性教育をしよう! (PNY びにい)	■エイズ基礎講座(人権・共生・いのちを考へる)406号室
404 (30)		少女たちはなぜ H を急ぐのか-親と子の対話のきっかけとして(高崎真規子)	■エイズ基礎講座(人権・共生・いのちを考へる)406号室
405 (30)			■エイズ基礎講座(人権・共生・いのちを考へる)406号室

◇ネットワークングパーティー: 8月7日(土)18:30～ 中華料理屋 迎珍 内容:中華料理を食べながら交流
参加費:4,000円(中華料理・飲み放題付き)3,000円(ノンアルコール) 定員:55名(申込先着順)

会場	10:00～12:00	13:00～15:00	15:15～16:30
ホール (260)	琉球太鼓 12:00～12:30 (横浜ダルクケアセンター)	エイズ教育の10年を振り返る (安藤晴敏・岩室紳也)	ホール ◇全体会・閉会式
301 (90)	HIV/AIDS教育で使いたい教材づくり Power Point 教材差し上げます (地域医療振興協会 岩室紳也)	独りになれない女達 (長谷川病院 精神科医吉永陽子)	<p>■展示 期間:8/6～8/8 場所:1階展示場</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇横浜 AIDS 市民活動センター ◇AIDS&Society 研究会 ◇アジアの女性と子どもネットワーク 「みんなの気になる性のこと」 ◇ATAC in NARA 「エイズと結核と感染症のなぞ」 ◇JaNP+ (ジャンププラス) 「JaNP+ Positive Bazar」 ◇ライフ・エイズ・プロジェクト (LAP) ◇東京ビジュアルアーツ「わたしの目」 ◇(財)エイズ予防財団 ◇神奈川県衛生部保健予防課 ◇主張するTシャツの会 ◇MTV JAPAN & The Body Shop ◇性を語る会 ◇「人間と性」教育研究協議会かながわサークル ◇AIDS カスタネット倶楽部 ◇国境なき医師団 ◇ban ran sai ・タイ HIV 感染孤児院施設 「あなたはコンドームをもっていますか?」 ◇オカモト株式会社 ◇横浜 YMCA ◇かながわレッドリボンプラザ ◇OurPlanet-TV ◇国境なき子どもたち ◇ふれきしぶる ◇HIV と人権・情報センター
302 (30)	「100人の村～AIDSバージョン～」 (横浜 YMCA ACT)	世界エイズ会議セックスワーカープログラム (SWASH)	
303 (30)	心と心をつなぐ護国術 ～教育プログラム～ (JOINT HEART)	市民の目線で見ると HIV 性感染症予防啓発ボランティア BASE KOBE	
304 (60)	H シジョウ主義 ～ファッション誌における性情報 (CAI :Campus AIDS Interface)	HIV陽性者ミーティング -ゲイ陽性者のセクシュアルヘルス向上- (JaNP+)(非公開・陽性者限定)	
305 (60)	「子ども買春とエイズ:森田明彦-子どもの権利活動家」(ふれきしぶる)	学校や地域で役立つ朗読ワークショップ (岡島龍彦 H.I.Voice Act)	
306 (30)	「なぜ薬が飲めないの?」 「AIDSのアンケート」 (ぼーとたまがわ)	find true love ～医学生による peer education の効果と実践～ IFMSA-Japan(国際医学生連盟 日本)	
403 (60)	はじめの一步は知ることから! (日本国際連合学生連盟共同研究プロジェクト)	SCORA/性と生殖・AIDSに関する委員会	
404 (30)	北タイのエイズ問題と子どもエンパワメント (神谷祐介・元 CARE タイランド・スタッフ)	即興再現劇を使い、AIDSを共に考えよう (プレイバックーズ)	
405 (30)	性意識の形成 (「人間と性」教育研究協議会かながわサークル)	後藤勝スライド上映会 Who Cares?They do care!カンボジアとエイズ(後藤勝・由美:Reminders Project)	

※PLWHA・PHA=People living with HIV/AIDS

■特別協力:一服のお茶から(神奈川県立舞岡高等学校 茶道部):展示場(6日(金)7日(土))休憩時間にお立ち寄りください。お待ちしております。

プログラム ナビ!!

多くの方々に分かりやすいよう、プログラムをカテゴリーで分けてみました。各プログラムは様々なカテゴリーに重なりあっていますので、あくまで参考です。どのプログラムでもご自由にご参加下さい。(但し参加限定している企画もあります。)

◆検査・治療の最前線

- ・エイズ治療最新情報(中村哲也:東京大学医科学研究所)
- ・性感症の現状(今井理恵:港町診療所婦人科)
- ・即日検査法の実態-今後の導入のために-(今井光信 神奈川県衛生研究所)・専門病院のHIV/AIDSケア~コーディネーターナースの活動~(国立国際医療センターエイズ治療・研究開発センター 池田和子)

◆教育関係、養護教諭、保健師の方々に...



- ・文科サイドと厚労サイドの連携学校教員と地域保健担当が行う授業連携の実際(安藤晴敏・岩室紳也)
- ・AIDS出前授業-この10年から学ぼう!(横浜エイズ勉強会)
- ・あなたならどうする?! アフリカエイズ紙芝居を使って(ジョイセフ[家族計画国際協力財団])
- ・エイズ教育の10年を振り返る(安藤晴敏・岩室紳也)
- ・10代に知らせたい! 性感症とエイズ(性を語る会)
- ・考えよう! 保健所をうまく使う“エイズ対策”(PNY ぴにい)

- ・HIV/AIDS教育で使いたい教材づくり Power Point教材差し上げます(地域医療振興協会 岩室紳也)
- ・カルタでカタル ワークであそぼ!(Child Sexuality Research:ランラン&エリス)
- ・心と心をつなぐ腹話術 ~教育プログラム~(JOINT HEART)
- ・性意識の形成(“人間と性”教育研究協議会かながわサークル)
- ・学校や地域で役立つ朗読ワークショップ(岡島龍彦 H.I.Voice Act)
- ・市民の目線で見るHIV(BASE KOBE)

◆社会問題を考える...

- ・夜回り先生-不登校、ひきこもり、リストカット、薬物乱用...夜の街で生徒と向き合った教師(水谷 修)
- ・あらたな薬害がまた... (薬害エイズを考える山の手の会)
- ・CAPおとなワークショップ(エンパワメントかながわ)
- ・「子ども買春とエイズ:森田明彦-子どもの権利活動家」(ふれきしぶる)
- ・独りになれない女達(長谷川病院吉永陽子)
- ・少女たちはなぜHを急ぐのか 親子の対話のきっかけとして(高崎真規子)



◆若者が主催する

- ・はじめの一步は知ることから!(日本国際連合学生連盟共同研究プロジェクト)
- ・世界エイズ会議「バンコク・ユースフォーラム」の報告ICAAPユースフォーラム実行委員会
- ・Hシジョウ主義~ファッション誌における性情報(CAI)
- ・find true love~医学生によるpeer educationの効果と実践~IFMSA-Japan(国際医学生連盟 日本) SCORA/性と生殖AIDSに関する委員会
- ・医療系大学生1年生 何も知らない私たち-今HIV/AIDSを考える-(横浜市立大学海外医療研究会)



◆セクシャリティは重要なテーマです...

- ・セクシュアリティ入門~性教育の基礎~(LAP)
- ・「向日葵」上映会/セクシャリティとAIDS(横浜Cruiseネットワーク)
- ・「せかみ10周年報告~横浜会議を振り返る~」(せかんどかみんぐあうと)

◆国際NGO、NPOの重要課題...

- ・在日中南米系住民のエイズの現状と対策方法(NPO法人CRIATIVOS-HIV・STD関連支援センター)
- ・国境なき医師団:派遣ボランティア医師ウガンダミッション活動報告(国境なき医師団日本)
- ・中国のエイズ危機(AIDS&Society研究会議、共催:第7回アジア・太平洋地域エイズ国際会議組織委員会)
- ・タイの農村での参加型エイズ教育~学校編(特定非営利活動法人シェア)
- ・「100人の村~AIDSバージョン~」(横浜YMCA ACT)
- ・後藤勝スライド上映会 Who Cares? They do care!カンボジアとエイズ
- ・北タイのエイズ問題と子どもエンパワメント(神谷祐介・元CAREタイランド)
- ・ジンバブエ・日本赤十字社HIVエイズ事業(日本赤十字社医療センター国際医療救援部)・世界エイズ会議セックスワーカープログラム(SWASH)

オープニング特別講演

「飯島愛とエイズ・愛・セックスを語ろう」



昨年の世界エイズデーをはじめ、最近HIV/AIDS関連に興味を持って活発に活動されている飯島愛さんが今年のゲストです

◆エイズ基礎講座

- ※休憩時間にやっています。どなたでもお気軽に
- ・エイズって何?
- ・治療は今?
- ・予防ってどうなってるの?
- ・人権・共生・いのちを考える
- ・PWHからのメッセージ

◆文化、体験、パフォーマンス、その他

- ・一緒に縫おうベビーキルト(ABCキルト横浜)
- ・琉球太鼓(横浜ダルクケアセンター)
- ・即興再現劇を使い、AIDSを共に考えよう(プレイバックーズ)
- ・一服のお茶から(舞岡高校茶道部)

◆HIV/エイズと共に生きる...

- ・Positive!!!!!!(パトリック&紳也)
- ・PWHの社会参加再考(AIDSネットワーク横浜)
- ・「なぜ薬が飲めないの?」「AIDSのアンケート」(ぼーとたまがわ)
- ・HIV陽性者ミーティング-ゲイ陽性者のセクシュアルヘルス向上-(JaNP+)(非公開・陽性者限定)

■発表（教室・ホール）

オープニング企画

「飯島愛とエイズ・愛・セックスを語ろう」

■主催：フォーラム運営委員会

■コンセプト：

エイズ予防は「ノーセックス」、「コンドーム」、「エイズ検査」につける。しかし、このことを徹底することが難しく、未だにHIV感染の拡大が続いている。多数のテレビでのレギュラー番組出演の傍ら、「プラトニック セックス」がミリオンセラーとなるなど、精力的に執筆活動も展開し、いつも本音でのトークを繰り広げている飯島愛さんを迎え、真剣に「いのち」、「エイズ」、「愛」、「セックス」を語る中でこれから日本は、みんなは、どうエイズに向き合えばいいのかを考えるトーク企画。司会は「コンドームの達人：岩室先生」。7月には飯島愛さんが連載している「Popteen」の「セックスER」でコンドームの正しい着け方を読者に伝授するだけでなく、メール相談も受け付けたところ連日のように性に関する相談メールが殺到し夜も眠れない毎日が続いていた。達人岩室が、飯島愛さんとトーク参加者〔HIV(+)の方から高校生まで幅広い層〕の間を取り持ち、若い世代がどうエイズと向き合うのかを考えました。



本音のトークの飯島愛さんを迎え、真剣に「いのち」「エイズ」「愛」「セックス」を語る…。

■トーク構成：

コメンテーター：飯島愛 司会：岩室紳也 ステージ上参加者：高校生4人（男1人、女3人）、大学・専門学校生（男1人、女3人）、社会人（男1人、女2人）、PWH 佐藤美奈子さん

■内容：

セックスの時にコンドームを使える？（何故使える、何故使えない、どうして使えるようになったか）。愛のないセックスもあり（どうしてあり、どうしてなし、そもそも愛って何？）。エイズは本当に予防できる（できる、できない）。エイズ検査は今のままでいい？（いい、よくない、こうして欲しい）といった意見交換と共に、フロアからの質問（例：「男性はコンドームをつけると感じ方が変わってくるのですか？」といったストレートなもの、約200通）にその場で答え、壇上でディスカッションを進めた。

■来場者感想：

- ◇有名人企画は一般的な人々への影響力が大きくて、講演の質をあまり期待していませんでしたが、聞いて大間違いでした。（20代、学生）。
- ◇ざっくばらんにいろいろな意見が出てよかった。年代を超えていろいろ話ができたらと思った（30代、教育関係）。
- ◇ステージ上の人たちがかなり本音で話していたので面白かったです（40代、教育関係）。
- ◇自分はオープンに性について話していると思っていたけど、飯島愛さんと岩室さんの話を聞いていて、自分も何か性についてためらいがあったのだと気付いた（20代、学生）。
- ◇この企画で明確になったことは「男性」がもっとセックスに対する意識を高めていかなければならないということだ。私は飯島さんがホールの男性にこれと呼びかける度に泣きそうになりました。今まで自分がどうしてつらかったのか少しわかりました。（20代、学生）。



- ◇愛chanとってもカワイイ。AIDSやコンドームについて知れてよかった(10代、学生)。
- ◇飯島愛さんが、とてもやわらかな自然な感じでいろんな人の話を引き出して、よかったです。発想が柔軟なのに感心しました。男性が自覚をとく、コンドームがもっと手に入りやすくとか、産婦人科に行きやすくとか、検査が大事、デートでいける雰囲気にとく、よくかんがえていらして、なるほどと思うことばかりでした。(50代、その他)。
- ◇メールでの質問は新しい取入れだと思います。賛成です。全部受け入れてもらえない寂しさがある(40代、主婦)。
- ◇年齢差別的な発言が多く、年齢高くちゃ参加しちゃいけないのか！！とムカつきました。中学生が参加していたけど、この内容を聞いて、本当の勉強になっているのかなーと疑問でした。(40代、教育関係)。
- ◇性交渉する行為が当たり前。何人の人としてもいいような印象を与えてしまうのではないか。これが果たして有意義な会であったのかどうか疑問に思った(60代、教育関係)。
- ◇飯島愛さんは軽快なトークで、テレビで拝見しているのとは全く違って、本気で勉強している人と思いました。現実的な話し合いで、今までの考え方や思いが変わった(60代、保健医療関係)。
- ◇内容的には若い人にも興味を持てる話でしたが、カミングアウトやポジティブなど専門的な用語で、生徒(中学生)と一緒にあったが、簡単に解説してもらえるとよかった(30代、教育関係)。
- ◇佐藤さんの話をじっくり聞きたい。歯切れがよくて、素直な意見が“わたしはどうか”と考えるので…。

■主催者反省:

携帯メールでフロアとのディスカッションを図るアイデアは予想以上の反響であり、ただただメールを流しながら紹介するという事態になってしまった。スタッフ不足の問題もあるが、パソコンに強いボランティアを募集し、メールの仕分け、分類別紹介とディスカッションを展開できればもう少し深みのある内容になったと反省。また、会場からあふれた人たちに対して、場外で見られるような工夫をする必要があるということも大いなる反省材料だった。



なぜ、いま、若者にエイズに対する関心を持ってもらいたいのか。

コラムーAIDS文化フォーラムin横浜

なぜ、いま、「若者とエイズ」

フォーラムの組織委員会、運営委員会ではもっと若者が参加する、参加したくなるようなフォーラムに出来ないかという意見が相次ぎ、様々な工夫がされてきました。今年は若者に人気が高い飯島愛さんに参加していただき会場が満員となる盛況となりました。

なぜ、いま、若者にエイズに対する関心を持ってもらいたいのか。これは単にHIVに感染する若者が増えているということだけではなく、エイズという問題を突き詰めていけば結局は自分の生き方、性、他人、社会、さらには世界とどう向き合うか、どうつながるか、という大きな問題であることに気付くチャンスになるからです。性感染症としての広がりが増えつつありますが、未だにエイズを「不特定多数の人とセックスをする不貞の輩の病気」と誤解

している大人たちは現実から目を背け、感染予防について積極的になれません。HIVの感染拡大が続く中で大きく価値観が異なる大人たちの議論は常に平行線をたどっています。

このような時に、いま、何が求められているのかと考えると当事者である若者による、若者のための取り組みではないでしょうか。若者が、何より、自分たちによる、自分たちのための取り組みを展開することこそが若者にとってエイズを身近に感じるための近道ではないでしょうか。来年はさらなる若者の参加を促していきたいですね。(AIDS文化フォーラム運営委員会)



HIV/AIDSについて基礎的なことを勉強したいという方の要望に応え...



■発表（教室・ホール）

エイズ基礎講座（全5回）

■主催：フォーラム運営委員会

■内容：

AIDS文化フォーラム in 横浜参加者の中で、あらためてHIV/AIDSについて基礎的なことを勉強したいという方の要望に応え、以下の5つの視点から基礎講座を開催した。

①エイズって何？（岩室紳也）HIVとAIDSの違いをはじめ、AIDSという状態になった時に困ること、最近の母子感染予防の実際、等、基礎的な内容を解説。

②治療は今？（岩室紳也）HIV/AIDSの治療がどのような基準で行われているのか、最近話題になっている耐性ウイルスを作らないためにどのような注意が必要かを解説。

③予防ってどうなってるの？（岩室紳也）HIVという人から人に感染するウイルスに感染しないようにするためにコンドームの詳細な装着法を含めて解説。

④人権・共生・いのちを考える（吉永陽子）エイズ問題を考える上で人権や共生の視点を持つことが重要であり、基礎的な視点について解説。

⑤PWHからのメッセージ（長谷川）自らHIVに感染していることを公表し、PWA/Hの社会的な諸事情による不利益を回避し、その改善を目指してPWA/Hのネットワーク（JaNP+）を構築する活動を紹介、解説。

■連絡先：

◇岩室紳也：（社）地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-1 日本都市センター9階

TEL 03-5275-1051 FAX 03-5275-1052 E-mail: shin.iwamuro@nifty.ne.jp

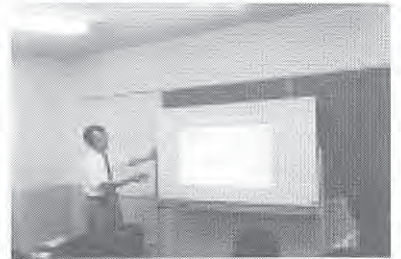
紳也's HP: <http://homepage2.nifty.com/iwamuro/>、

◇吉永陽子：長谷川病院、〒181-0015 東京都三鷹市大沢2-20-36

TEL 0422-31-8600（代表）<http://www.hasegawa-hp.or.jp/>、

◇長谷川博史：JaNP+代表、〒160-0014 東京都新宿区内藤町1-7ホヲトクビル402 TEL 03-5367-8558 FAX 03-5367-8559 E-mail: info@janppplus.jp

HP: <http://www.janppplus.jp/>



一服のお茶から

■主催：県立舞岡高校茶道部

■内容：

エイズ文化フォーラムに参加される皆様に、一服のお茶を差し上げたいと参加致しました。今回は、おかげさまで、多くのお客様にお越し頂き、様々な励ましのお声を頂き感謝しております。裏千家茶道では「一碗からピースフルネス」を合い言葉に、茶道が平和の架け橋の一端になればと、学んでいます。その気持ちを、皆様感じて頂ければ幸いです。今年は、様々な分科会にも参加させて頂きました。オープニングも楽しませて頂きましたが、水谷先生のお話を伺ったり、2日目の午後の分科会では、現役高校生として意見を述べさせて頂く機会も得ました。生徒も様々な大人が居ることを学んだり、表現することや受容することの大切さも学んだと申しておりました。また、お越し下さったお客様から「和む」「美味しい」「ほっとする」などのお言葉を頂き場違いかとも思った出展ではありますが、受け止めて下さる皆様にご感謝しております。本当にありがとうございました。

■神奈川県立舞岡高等学校 横浜市戸塚区南舞岡3-36-1 TEL 045-823-8761

水谷修・夜回り先生

■主催:フォーラム運営委員会

■内容:

不登校、ひきこもり、リストカット、薬物乱用・・・夜の街で生徒と向き合った教師。現在多くの子どもたちが、夜の世界に沈み非行や犯罪を繰り返したり、またリストカット、OD(大量服薬)などを繰り返し苦しんでいます。その現状と背景を知って頂くことを通して、今私たちが子どもたちのために何ができるのか、何をしなければならないのかを考えてみました。詳細は「夜回り先生:水谷修著、サンクチュアリ・パブリッシング」を参照してください。



■来場者感想:

将来、教職を目指す私にとって、今、子どもをとりまく状況は、自分の想像以上のものであると思いました。その社会の中で、まずは大人である私たちが夢をもち、希望をもちいきいきと人生を歩むことがこれからは生きる子どもたちを育てられるのだと思いました(20代、学生)。涙が止まらなかった(10代、学生)。大人の責任を痛感しました。薬物に関しては同感です。薬が毒であるということをもっとみんな知る必要があると

思います。私は高校の養護教諭ですが、保健室に居場所を求めてくる生徒(特に男子)が多いです。みんなのお母さんになった気分です。仕事をしています。かわいいけれど大変です。でも水谷先生のお話を聞いてがんばらねばと思いました(30代、教育関係)。愛だけでは人を助けられない事、知りました。大人は無知の知をふりまいている事、知りました(20代、学生)。どんな子どもでもいい子だということ、非行があるのは大人のせいだということを痛感しました(20代、学生)。時には涙しながら、時には心の中からふるえる感動を覚えながら聞いていました。真剣に子どもを愛する、子どもの幸福を願うとはどういうことか伝わってきました(50代)。私は「ほめる親」になろう!と思いました。もし親になれなくても「ほめる職」につきたいです。「なんでそんないい子をしかるんですか?」という先生の発言に心を打たれました(10代、学生)。

■連絡先:

水谷修 〒233-0006 横浜市港南区芹が谷2-14-14 TEL/FAX045-822-2879

E-Mail om@yhb.att.ne.jp

URL <http://koubunken.co.jp/mizutani/main.html>

BBS<http://koubunken.co.jp/mizutani/keij.html>

URL2 <http://www.sanctuarybooks.jp/mizutani/>

横浜ダルク琉球太鼓

■主催:横浜ダルクケアセンター

■内容:

ダルクは、薬物依存症のリハビリ施設です。ダルク利用者による琉球太鼓で会場を盛り上げました。

■連絡先:

横浜ダルク ケア センター

〒232-0017 神奈川県横浜市南区宿町2-44

電話 045-731-8666 FAX 045-743-4029



時には涙しながら、時には心の中からふるえる感動を覚えながら聞いていました。





会場は爆笑につぐ
爆笑。笑いのうちに
教育効果をあげ
る...



■発表（教室・ホール）

10代に知らせたい！ 性感染症とエイズ

■主催：性を語る会

1987年設立、国内外に2,000余名の会員がいる。シンポジウム、講演会、イベントなど年間数10回開催。機関誌(季刊)発行。

■内容：

「性を語る会」代表・北沢杏子製作による『10代に知らせたい！ 性感染症とエイズ』女子編、男子編を上映したあと、会場から挙手して父親役と息子役になってもらい、ロールプレイを行なった。場面設定は、部活の友だちに誘われてピンサロに行こうとしている息子に、父親がどう対応するか——というもの。父親Aさん、Bさんの説得に物足りない母親役がとび出してきて関西弁でまくしたて、会場は爆笑につぐ爆笑。笑いのうちに教育効果をあげる企画を毎年練っています。展示は、アーニ出版の新作ビデオや教材、書籍を紹介。場所はいいところが当たってラッキーでした。

■連絡先：

〒158-0097 東京都世田谷区用賀3-5-8
TEL:03-3708-7326 FAX:03-3708-7324
E-Mail shima@ahni.co.jp 代表 北沢杏子

ジンバブエ・日本赤十字社HIVエイズ事業

■主催：日本赤十字社医療センター国際医療救援部

日本赤十字社における国際救援派遣要員の養成・派遣・支援と、主に国外におけるHIV/AIDS支援を行っています。

■内容：

日本赤十字社は国際赤十字の一員として、平成15年度よりジンバブエ赤十字社のHIV/AIDS事業を支援しており、今回、同地にて6ヶ月間派遣された東薬剤師が活動を発表した。成人人口の30%がHIVに感染し、平均余命が10年間で56歳から35歳までと、20歳以上も低下したジンバブエは、エイズで多くの働き手を失った上に、2002年の大旱魃で、食糧危機にも陥った。この状況下、ジンバブエ赤十字社は、ボランティアによる訪問看護などの支援事業を行っている。東薬剤師は特にケアに必要な医薬品が患者に渡るまでのルートを構築した。倉庫内の薬の管理、医薬品を有効に使用するための教育、患者・地域診療所へ薬の配布などである。同国では、今年度、エイズ治療薬が導入される予定であり、訪問看護を行っているボランティアへのエイズ治療薬やフォローアップの教育が必須となっている。現在、看護師を派遣中であるが、ジンバブエ赤十字社と協力し、エイズ治療薬の安全な普及に努める方針である。

■連絡先：

日本赤十字社医療センター 国際医療救援部 救援課
〒150-8935東京都渋谷区広尾4-1-22
TEL 03-3400-1311(内線2160) FAX 03-3400-0232 E-mail imrd@med.jrc.jp

一緒に縫おうベビーキルト

■主催:ABCキルト横浜

エイズの赤ちゃんや親をエイズで亡くした子どもたちに励ましのキルトを作って贈るボランティアです。

■内容:

若い世代に夏休みを利用してボランティア体験できるよう、キルト作りのワークショップを行ってきました。毎回若い人たちの参加が少しずつ増え、今回は2つの学校から生徒たち10名が先生と参加してくれました。ABCキルトのボランティアに関する説明の中で配布したエイズ予防のしおりを示しながら、家庭でエイズについて話すよう参加者にお願いしました。特に生徒たちの親が予防方法を知らないことが多いので、しおりを使って親子で話すよう伝えました。この日、参加者によって4枚のキルトが縫われましたが、子どもたちに贈られる前に沢山の人たちに触れてもらえるよう、来年は展示会場に展示できればと思います。また毎年3月に行われる「春のレッドリボンウィーク」では、ABCキルトに取り組む学校の生徒たちが製作したキルトを展示し、活動内容を発表しているのので、一人でも多くの人にご覧いただきたいと思っています。(ワークショップ参加者:33名)

■連絡先:

代表者氏名: 上村春子(カミムラハルコ)

TEL/FAX: 045-844-8124 E-mail: abcquilt_yokohama@yahoo.co.jp



家庭でエイズについて話すようお願いしました。特に生徒たちの親が予防方法を知らないことが多いので...

在日中南米系住民のエイズの現状と対策方法

■主催:NPO法人CRIATIVOS-HIV・STD関連支援センター

滞日ラテンアメリカ出身者が中心に設立したNGO(団体所在地:神奈川県)です。厚生労働省HIV社会疫学研究班や東京都新宿保健所等と協働し、おもに、滞日ラテンアメリカ出身者を対象にした、ポルトガル語とスペイン語による電話相談、カウンセリング、感染者サポート、予防啓発、研究調査、人材養成などの事業を行っています。

コラム-AIDS文化フォーラムin横浜

共催ありがとう、神奈川県。

■共催の神奈川県を担当者・彦根倫子さんからメッセージ

平成16年4月に神奈川県保健予防課に異動になり、文化フォーラムのことについて引継ぎを受けて「何でこんなに継続できているのか？」が素朴な疑問でした。そして事務局の方々と一緒に初めて文化フォーラムを体験し、なんともアットホームで気持ちのかような方々の集まりなのだろうと実感しました。そして、県でも初めてインターンシップで高校生と専門学校の学生さんを受入れて、準備から一緒に同じ時間を共有

できたことが私にとっての財産になっていると思っています。(学生さんたちからのコメントを読んで下さい。)裏方でプログラムについては、見ることはほとんどできませんでしたが、会場の整理や呼び込みや、そして、最後の片付けまで若者とともに過ごせたことで、疲れが吹き飛んでしまいました。

※神奈川県には、フォーラムの共催として会場提供・広報協力・共同イベント開催などに協力していただいています。感謝です。

(AIDS文化フォーラム運営委員会)

■発表（教室・ホール）

Positive!!!!

■主催：パトリック&紳也

■内容：

自らがHIVに感染していることをカミングアウトし、POSITIVEに生きてきたパト。パトとは友人でもあり、主治医でもある岩室紳也がフリーなトーク形式でこの一年を振り返った。昨年末「パトリック・ボンマリートの生活と意見 僕の幸福論」(木魂社)を出したパト。HIVに感染してから常に目標を持ち、一つ一つを達成しながら毎日を生きているが、決して平坦な毎日ではない。一回も服薬を欠かさないというのは本当に大変なことだが「自分のため」ときちんと服薬を続けているパトに対して、紳也先生はあくまでも支援者という立場で恋愛も、治療も、そして講演活動も相談しながら実施している。HIVに感染していてもしていなくても多様な人がいる中で、このようにPositiveに日々歩んでいる二人の関係性はこれからも紆余曲折があることであろう。

■来場者感想：

恋するパトちゃんがかわいかった(20代、学生)。初めて参加し、HIVキャリアの方の考え方と医師と患者の関係、HIVの方に対する接し方を考えることができた(20代、学生)。今日1日の中で、いちばん自分の中で異和感のないしっくりきたきもちのよい時間でした！！(30代、主婦)。とても楽しく、飾らない、おしきせでないお話がきけたと思います(30代、教育関係者)。HIVの(どちらかというと暗い)話かなあと感じていましたが、予想と違って、楽しかったです(40代、会社員)。

■連絡先：

岩室紳也：〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-1 日本都市センター9階
(社)地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター TEL 03-5275-1051 FAX 03-5275-1052
E-mail:shin.iwamuro@nifty.ne.jp
紳也's HP:<http://homepage2.nifty.com/iwamuro/>
パトリック:E-mail:patrick@p.email.ne.jp
<http://homepage.mac.com/patrickintokyo/>



HIVに感染していることをカミングアウトし、POSITIVEに生きてきた...

医療系大学生1年生 何も知らない私たち —今HIV/AIDSを考える—

■主催：横浜市立大学海外医療研究会

私たち横浜市立大学海外医療研究会では国内外の医療への知識を深め、医療へのモチベーションを高めるべく、ワークショップや勉強会などの活動をしています。

■内容：

私達、横浜市立大学海外医療研究会では「医療系大学生1年生 何も知らない私たち—今HIV/AIDSを考える」という題で発表を行いました。医学部1年生・看護学部1年生での発表でした。医療系大学生とは言うものの、当初はHIV/AIDSについてほとんど何も知らないような状況でした。そのような私たちがHIV/AIDSに関する人たち、具体的にはタイのエイズホスピスに行った方・小中高でエイズの啓発活動をしている方・エイズ患者に接している看護師の方との出会いを通じて何を思い考えたのかを発表しました。エイズ講座や啓発活動に参加しての感想も盛り込みました。また、アイスブレイキングとしてエイズに関するサイトマップを作成したり、感染者の方が投稿する雑誌の記事を輪読したりもしました。開会式直後という時間帯が幸いしてか、のべ40人前後の方が来て下さいました。

■連絡先：

横浜市立大学海外医療研究会
E-Mail: oveaseas-ycum@yahogroups.jp



NPOが行っている出前エイズ&性教育

■主催:ハートブレイク

大阪で電話相談「思春期のこころ&カラダ・性の相談」と性教育を実践しているボランティアグループです。

■内容:

ハートブレイクの「性教育(AIDS教育)」の一部を現状報告の後、模擬授業風を実施しご覧いただいた。そこには、HIV感染者の方々と接して感じたことや、専門医からの情報を出来るだけ織り込んでいる。それは、受け手である若者たちがHIVやAIDSの真実に気づき、自ら予防行動を起こすきっかけ作りを期待しているからに他ならない。従って「押し付け」「怖さの強調」など主観的なものは出来る限り排除している。私たちは、ビデオやスライド等を用いることは極めてまれである。理由はいくつかあるが、最大の理由は若者たちの反応による微調整がしにくいためである。そこで主に用いているのが、目で触れ・手で感じ、「考え落ち」が可能な手作り教材の数々である。比喩的表現も加えながら進めていく過程で、彼らの興味を引き「一緒に考えていく」ことが出来るのである。これらの内容にあえて言及することなくプレゼンテーションを実施したが、参加された方々はどう感じとられたのでしょうか……。

■連絡先:

〒533-0033 大阪市東淀川区東中島1-20-12 ユニゾーン新大阪403

TEL 06-4809-6628 FAX 06-4809-6629

E-mail heart@au.wakwak.com

ホームページ <http://park14.wakwak.com/~heart/>

代表者 黒瀬久美子



飯島愛さんの講演を聞いて、はじめてコンドームのつけ方を教わりました。

コラムーAIDS文化フォーラムin横浜

インターンシップで参加した高校生・専門学校生

■インターンシップとして参加した高校生・専門学校生の感想です。

○エイズは日常ではうつらない病気なのでむやみに恐れないで欲しいと思った。～中略～私もこれから何かに貢献してみようと思う。

○隣にいる人がエイズである確率が上がってきている今、エイズについての知識は必要だと思います。もっと多くの人にエイズのことを知ってほしいです。

○不十分な知識で行動することは、綱渡りをすることに似ていませんか？綱渡りをさせない為にも、幼い頃からの教育が大切ではないのでしょうか？その為には大人が知識を得なければ、いけません。～中略～それが難しいのなら、学校から始めて欲しいと私は、深く心に思いました。

○これからも感染者が増えていかないように私達が努力してくべきなのではないでしょうか。私は今回の体験を通してAIDSについてよく知らない人や間違った知識を持っている人に正しい知識をちゃんと理解して欲しいと思いました。

○飯島愛さんの講演を聞いて、はじめてコンドームのつけ方を教わりました。だけどその中でも、まだ疑問に感じている所がいくつかあります。私はこんなにもまだまだ無知だったと感じさせられました。

○エイズ文化フォーラムに参加できたことはとてもよかったです。エイズに取り組む市民団体が多く存在することを知ることができましたし、エイズというものが、身近に存在するものだと感じる事ができました。



教員と医師のそれぞれの立場から、連携して授業を展開する...



■発表（教室・ホール）

即日検査の実践—今後の導入のために—

■主催：今井光信 神奈川県衛生研究所

今井光信（神奈川県衛生研究所長。厚生労働省科学研究費エイズ対策研究事業「HIV検査体制の構築に関する研究班」班長。）

■内容：

国内のHIV感染者／AIDS患者の増加にもかかわらず、保健所の検査の受験者は減少しています。本講座では、HIV抗体検査の基本（検査方法やウインドウ期等）について、わかりやすく説明しました。さらに、厚生労働省の研究班での試みを踏まえ即日検査についてのメリット、デメリットもあわせて、お伝えしました。実際に即日検査を開始した保健所では、受験者は増加していますが、プライバシーの保護についての重要性や、判定保留についての対応等かなり具体的な内容も交えてお話ししました。今後の導入についての参考になれば幸いです。

■連絡先

◇神奈川県衛生研究所 神奈川県茅ヶ崎市下町屋1-3-1

TEL 0467-83-4400 FAX 0467-83-4457

「HIV検査・相談マップ」<http://www.hivkensa.com/>

◇神奈川県保健予防課 ひこね

文科サイドと厚労サイドの連携

学校教員と地域保健担当が行う授業連携の実際

■主催：安藤晴敏・岩室紳也

■内容：

いま、HIV感染拡大が勢いを増す一方で、エイズ教育、性教育のあり方に対して様々な意見がでていいる。学校現場の授業は学習指導要領を基本として、教科書や教師が集めた資料を基に行うことになっている。安藤は保健体育の教員として、また、エイズ教育が学校現場で開始された当初から地域の保健所との連携、感染している人達との交流を通し、また自ら病気をした経験をもとに授業を組み立てているその実際を紹介した。一方で、岩室は地域保健の立場でエイズ予防を訴えてくる中で、自らがHIVに感染している人と握手しパニックになる経験を踏まえ、具体的でわかりやすいエイズ教育の必要性を訴え、実践してきた。今回、教員と医師のそれぞれの立場から、それぞれが連携して授業を展開する場合の役割分担が理解できるような授業の展開を紹介した。

■来場者感想：

授業内容がわかってとても勉強になった。ただ外部講師の方をよんでも下手なのでよべないのが現状です(50代、教育関係)。安藤さんの学校現場での教育に関しての講義は、今回多くの現場の教師に励ましになったと思う。岩室紳也さんの保健の立場の講義、やさしく、わかりやすいものでこういう方法で教育現場に挑むのは大切！だと思いました。(60代、教育関係)。小学校の教員ですが、高校での実際が聞けてよかったです。学校と医療機関の理想的つながりが見えました(40代、教育関係者)。子どもたちが求めているのは、対処療法ではないし、特に教育現場にあってはそうであってはならないと思う。危険性のあるコンドーム教育以外のフォーラムの必要性を感じます(30代、主婦)。

■連絡先：

安藤晴敏 神奈川県立津久井高等学校

〒220-0209 神奈川県津久井郡三ヶ木272-1

TEL 042-784-1053 FAX 042-784-7960

岩室紳也 (社)地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-1 日本都市センター9階

TEL 03-5275-1051 FAX 03-5275-1052 E-mail:shin.iwamuro@nifty.ne.jp

紳也's HP:<http://homepage2.nifty.com/iwamuro/>

性と生を大切に出来る性教育をしよう！

考えよう!保健所をうまく使う“エイズ対策”

■主催: PNY (びにい ; Peer Network Yamagata)

PNYは、性問題について、様々な立場のメンバーがPeer(対等、仲間、立場が同様な)な関係で効果的な対策を検討していくために活動しています。

■内容: 「性と生を大切に出来る性教育をしよう！」

関係機関が連携し自分の性と生を大切にすることが出来る性教育をみんなで検討することを目的に話し合いました。参加者は、教諭・保健行政・NGO・NPO・学生など様々な立場にある方で、職種で分かれたグループワークの後、シャッフルし、様々な職種の人がある一つのグループを一つの地域と仮定し、その地域の性と生を大切にできる性教育のための連携とは何なのかを話し合っていました。結果、

- ・行政と地域の連携において、必要性を感じないと行動を起こさないで、大人への性教育が必要！検診など必ず参加しなければならないところでの性教育が必要である。
 - ・学校では、性教育の枠の中の教育も大切だが、毎日のコミュニケーションの中で話し、また、子供の性格を知っている担任の先生の協力が必要である。
 - ・PTAから見ると生殖教育というイメージが強く、本来の人生を通しての生をみつめる性教育(性教育/二次性徴)を学校とPTAが連携して伝えていこう。
 - ・保健所は黒子になって、次世代の育成に力を入れていく。
- などの意見がまとめられました。これらの意見を基にPNYでは連携を図るためのマニュアルを作成していきたいと思ひます。

■内容: 「考えよう!保健所をうまく使う“エイズ対策”」

有効なHIV/AIDS・STD対策を行う為の保健所活用についてNGO、学校、PHA、保健所等様々な立場から一緒に考えることを目的に話し合いました。職種で分かれたグループワークの後、シャッフルし、様々な職種の人がある一つのグループを一つの地域と仮定し、その地域のHIV/AIDS・STD対策を行う為の保健所活用について話し合っていました。結果、

- ・行政と学校では、行政は予防・学校が現状と、その教育の意味にずれがあり、また、学校内にも上と下、教諭と養護教諭に、温度差があり、どちらにあわせたらよいか問題がある。子供たちにはどのような教育が必要なのか連携して検討していく必要がある。
- ・保健所には、教員に現状を教えていく役割を取ってほしい。
- ・学校へ、保健所がどのような対応をしてくれるのか記入されたパンフレットがほしい。
- ・保健所は講演を実施しただけではなく、新しいこと・やったことの結果・評価をはっきりと上げていく必要がある。などの意見がまとめられました。これらの意見を基にPNYではパンフレットの作成やこれからの性教育の形を検討していきたいと思ひます。

■連絡先 mutsuko@mub.biglobe.ne.jp(代表:渡會WATARAI)



行政は予防・学校が現状と、その教育の意味にずれがあり...



■発表（教室・ホール）

専門病院のHIV/AIDSケア

～コーディネーターナースの活動～

■主催：国立医療センターエイズ治療・研究開発センター 池田和子

1997年4月に設立されたエイズ治療・研究開発センターでコーディネーターナースとして、患者教育や相談業務、医療者からのコンサルテーション業務に従事。

■内容：

すべての患者がすぐに治療を開始しませんが、HIV感染症は進行性であるため、時期をみて開始を検討します。治療の成功には、確実な服薬による十分な血中濃度の維持が鍵となり、医師の能力よりも患者自身の努力と工夫が必要となる治療です。治療は「ウイルス量の抑制により病気の進行を遅らせ、免疫力を回復させていろいろな病気になりにくく」させます。しかし一方で消化器症状などの副作用症状への対処や、長期服用による毒性や薬剤耐性ウイルスが出現した場合は、薬剤の変更を余儀なくされるなど、服薬開始後の問題もあります。処方原則は3種類以上の組み合わせですが、治療効果の強さ、交差耐性の問題から、組み合わせの変更には限界があります。また薬剤により、内服回数や錠数が異なり、保存方法や食事（食後・空腹時）との関係も考慮しながら、現実的に「患者さん自身が飲み続けられる組み合わせ」を選ぶことが出来るよう、患者さんは自分の治療が成功するよう、医療者に質問し、医療者は患者さんが質問しやすい環境を作り専門的アドバイスを行ってください。コーディネーターナースは、専門医療機関で行われる医療に患者さんが主体的に参加できるよう支援させていただいております。いま診察を受けている病院では、不安がある場合は積極的にセカンドオピニオンを求め、諦めずに医療に参加してください。

■連絡先：

国立国際医療センターエイズ治療・研究開発センター 池田和子

TEL 03-5273-5430 FAX 03-3208-4244



医師の能力よりも患者自身の努力と工夫が必要となる治療です。

派遣ボランティア医師ウガンダミッション活動報告

■主催：国境なき医師団日本

国境なき医師団(MSF)は、1971年に設立された営利を目的としない国際的な民間の医療援助団体です。

■内容：

国境なき医師団(MSF)は、開催2日目の朝10時から、「派遣ボランティア医師ウガンダミッション活動報告」と題して報告会を行いました。アフリカのウガンダ共和国の北部にあるアルアという町でHIV/エイズ治療プロジェクトに携わった荒井義章医師が、町の病院でのMSFの活動、個々の患者さんの症例、人々の生活などを豊富なスライド写真を使って説明しました。アルアではMSFによりHIV/エイズ治療が無料で提供されていても、病院までの交通費が工面できない、看護をする家族がいないなどの理由で治療を受けられない人もおり、小さな子どもまでもが命を落としていくという厳しい現状が伝えられました。そういった困難な状況のなかで行われているMSFの活動に、出席者は熱心に耳を傾けていました。荒井医師は最後に、世界の国々がHIV/エイズ対策に熱心に取り組んでいる一方、日本の対策は遅れていることも指摘し、この問題を身近なこととして考えて欲しいと呼びかけました。

■連絡先：

〒161-0033 東京都新宿区下落合2-4-10

TEL 03-5988-0560 FAX 03-5988-0561

URL: <http://www.msf.or.jp>



AIDS出前授業—この10年から学ぼう！

■主催: 横浜エイズ勉強会

HIV/AIDSを身近な問題と捉え、学校や地域で自分の言葉で伝える方法でワークショップを行っています。

■内容:

◎午前: 10年目を迎えた横浜エイズ勉強会の定例ミーティングでは、様々な人たちが集まって、新しい出会いとともに新しいワークショップの体験を重ねています。この時間は、「この10年から学ぼう(1)」として、勉強会が今年の2月に横浜市内の小学校でプレイバックシアターのメンバーの協力を得て実施したワークショップを体験してもらいました。アイスブレイキング「フルーツバスケット」(簡単な椅子取りゲーム)。二人組に別れて演じる即興劇(HIV+の実際の体験を追体験する)。参加者の感想と意見交換など。いつしか笑いこぼれているアイスブレイクでは、自分の身体や気持ちの状況に同じ人が席を立ち、椅子取りを重ねることで、互いの個性や共通点を探りました。即興劇では、設定されたシチュエーションの役割を各々が演じている内に感情が高ぶり声も大きく、隣の部屋に迷惑をかけてしまう程、夢中になってしまいました。意見交換では、お互いの違いと同じを知る大切さや、HIV/AIDSを自分の感覚として共有する効果を確認しあいました。進行役のサマンサさんと、心地よい時間を一緒に作ってくれた全国からの参加者の皆さんに感謝しています。

◎午後: 横浜エイズ勉強会が活動を開始した1995年からこの10年間、私たちの活動のきっかけとなったAIDS文化フォーラムの場で、毎年活動紹介を行ってきました。この時間は、「この10年から学ぼう(2)」として、勉強会がここ数年行っているワークショップのスタンダードを紹介しました。アイスブレイキング「共同絵画」。HIV/AIDSの基礎知識。さわやかジャンヌのコンドーム教室。参加者との質疑応答。参加者アンケートから、勉強会の手作りワークショップ、手作りグッズの体験を通して、「これはイける!」「もっとこうしたら」「私ならこうする!」という収穫や気づきを持ち帰っていただけたように思いました。神奈川、東京、千葉、栃木、埼玉、群馬、静岡、石川、大阪、福岡、大分から、旅費と時間を使って参加して下さった皆さんに感謝しています。皆さんのコメントをパワーにして、これからの活動に生かしていきたいと思えます。

■連絡先:

〒231-8548 横浜市中区常盤町1-7 横浜中央YMCA・NPOセンター内
TEL045-662-3721 FAX 045-651-0169 <http://www.yokohamaymca>



手作りグッズの体験を通して、「これはイける!」「私ならこうする!」

「性感染症の現状」港町診療所医師・今井理恵

■主催: フォーラム運営委員会

■内容:

毎年、フォーラム運営委員会では性感染症についての専門科医を講師として迎える企画を実施している。今年の担当講師は港町診療所勤務の産婦人科医師・今井理恵氏。今井氏は勤務医だけでなく、保健所・学校での講演相談などにも協力している行動的医師。著書には『“ほっ”とする生理痛の本』(築地書館)『安心して治す子宮筋腫』(池田書店)等があるが、川崎共同病院勤務時代、地域で在日韓国・朝鮮人の患者さん達との交流をとおして出版された『たのしくおいしい朝鮮料理』(わらび書房)がある。資料用プリントを配布。総論として性感染症の現状(今何が誰にどれだけ流行しているのか)各論として性感染症の基礎知識(原因、症状、感染経路、検査方法、治療法など)について情報提供をして頂いた。説明は患者さんの立場にたつてわかりやすかったと好評であった。質疑・応答ではいいねいに詳しく答えて下さり、また、臨床現場の医師として日頃考えている事を語って頂く場面では、あつい思いがあふれて司会も含め来場者は感激。

■連絡先:

港町診療所横浜市神奈川区金港町7-6 TEL-045-453-3637 婦人科は要予約



■発表（教室・ホール）

CAPおとなワークショップ

■主催：エンパワメントかながわ

暴力のない社会をめざして、CAP(子どもへの暴力防止)プログラムの提供を中心に、すべての人々の人権意識を高めるために活動する特定非営利活動法人(NPO法人)です。

■内容：

暴力のない社会の実現のためには、すべての人々が人権について理解し、暴力を受けずに生きている力があることに気づき、その力を発揮できるよう支援すること(エンパワメント)が不可欠です。25年前にアメリカで開発されたCAP(Child Assault Prevention:子どもへの暴力防止)は、子どもたちに、ひとりひとりがかけがえのない大切な存在であると感じてもらいながら、暴力を受けそうになったときに何ができるかを、子どもたちと一緒に具体的に考えていくプログラムです。今回は、おとな向けに、子どもワークショップ(参加型学習)の紹介をしながら、子どもの権利(安心・自信・自由)を守るため、子どもを孤立させないため、子どもを支援していくために、おとなができることを考える、'おとなワークショップ'を提供しました。参加者から、「とても楽しく人権について考えられる2時間でした。すべての人が安心・自信・自由に生きられるよう、何かしてあげたいなと思いました。」「全ての子どものCAPのプログラムをうけてもらいたいです。」という感想をいただき、私たちが元気になりました。未来を担う、そしてまさに今の自分自身を生きる、ひとりひとりの子どもたちとともに暴力のない社会を実現する……そんな奇跡(みらくる)をおこすために、これからも私たちは、活動していきます。

■連絡先：<http://www15.ocn.ne.jp/~empkng/>

中国のエイズ危機

■主催：AIDS&Society研究会議

HIV陽性者の支援が感染予防にも最も効果のある方法であるとの考えに基づき活動を続ける特定非営利活動法人。

■共催：第7回アジア・太平洋地域エイズ国際会議組織委員会

■内容：

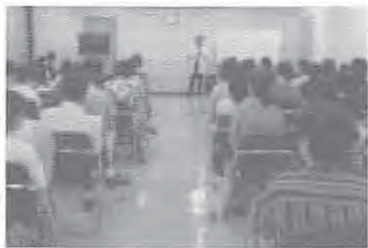
中国では2010年にHIV感染者が1000万人を超えるとの推計もある。2003年のSARSの流行の経験から、感染症対策に関しても情報を公開し、現実に立脚した対策を取っていく姿勢は見られるようになったものの、いまなおHIVの感染がどこまで広がっているか、HIVに感染した人たちはどのように生活しているのかなど、十分な情報が伝えられていない。2008年北京五輪、2010年上海万博と巨大プロジェクトを控え、中国の開発ブームはHIV/エイズの流行にも大きな影響を与えると予想される。2004年7月にバンコクで開かれた第15回国際エイズ会議の最新情報も踏まえ、いま最も気になる中国のHIV/エイズの流行について、中国ウォッチャーの産経新聞外信部次長、山本秀也とHIV/エイズ疫学の専門家である国立人口社会問題研究所の小松隆一氏にそれぞれの視点から報告をお願いした。2005年7月に神戸で開かれる第7回アジア・太平洋地域エイズ国際会議の組織委員会との共催イベントであり、観光や経済活動などを通して日本国内のHIV/エイズの流行にも大きな影響を及ぼすテーマであるだけに、高い関心を集めた。

■連絡先：

特定非営利活動法人AIDS&Society研究会議 事務局
TEL&FAX:03-3200-0399 E-mail:mail@asajp.org



ひとりひとりの子どもたちとともに暴力のない社会を実現する...



PWHの社会参加再考

■主催:AIDSネットワーク横浜 (ANY)

93年2月にエイズの予防啓発を目的として発足。電話相談、ボランティア養成講座、出前講座を実施している

■内容:◇講師ちよこ

経済は上向きになったと報じられているが、いざ、生活の基盤として就職するとなると生易しい状況ではない。まして、感染を告げての就職の困難さは筆舌に尽くし難い。自分のやりたい仕事を遂行するため学業に励み、念願かなって採用されるも無断検査で感染が判明し、依願退職となってしまった。身体障害者枠での再就職を試みるも、なかなかうまく行かず最終面接にこぎつけても感染者とわかると不採用になった。企業の感染者への壁の厚さを実感した。視点を変えて中途採用に挑みやっと職を得る。現在は上司、同僚関係もそれなりに経験し、社会人として生き甲斐もあるが、感染が知られたときの不安もある。質疑を通して、明るく健康そうな状況はスポーツクラブでの鍛錬と何よりも母親と医師などの支えが大きいことを知った。勤務先での服薬の困難さについては参加者からの工夫も寄せられ、会場が一体になった感があった。告知については、動揺を避けるための柔らかい表現はかえって不安を募らせるとのこと、ありのままをはっきり告げてくれた方が良いということなど、当事者でなければ分からない多くのことを学んだ。最後に、いろいろな感染者が団体として固まって活動しているが、自分たちの中だけではなく、もっと社会に出て活動し、社会もそれを普通の人として受け入れ、共に暮らして行けたらとの願いに強い共感を覚えた。

■連絡先:

〒231-0015 横浜市中区尾上町3-39尾上町ビル9階
横浜AIDS市民活動センター内 TEL045-201-8808 FAX045-201-8809
E-mail any@netpro.ne.jp 代表者 笹田克子

カルタでカタル ワークであ・そ・ぼ!

■主催:Child Sexuality Research : ランラン&エリス

■内容:

性の健康ワークショップ講師のエリスと相棒ランランの親子ジョイントワークショップ 小3の息子に「ママ、セックスってなあに?」と聞かれてショックを受けるお母さん。5年生の同級生同士で親のいないところで エロビデオを見たことが発覚し、地域で大問題になったケース。学校と連携しながら地域は親は子どもにどんな情報を伝えることが望ましいのでしょうか。子どもは親を選ぶことができずにこの世に生まれてきます。でも自らの存在の根源には愛があったと信じたい。それが人間です。愛の上に成り立った奇蹟のような偶然が私たちの生を支えています。これらのプロセスをひとつひとつたどるのは容易ではありません。そこで私達は子どもが聞きたいと思っていること、おとなが話しにくいと思っていることをカルタにしました。カルタ遊びをする中で今まで聞くこと・話すことができなかったことを口にし、楽しく遊びながらおとなも子どももエンパワメントできるプログラムを作成しました。カルタとり、カルタ作成ともに大いに盛り上がり、楽しく発見のある 時間となりました。

■連絡先:CSR E-mail:sokosan_o@ybb.ne.jp



感染を告げての就職の困難さは筆舌に尽くし難い。



■発表（教室・ホール）

エイズ治療最新事情

■主催：**中村哲也：東京大学医科学研究所**

■内容：

東京の拠点病院での診療の実際を踏まえ、HIV/AIDS診療の最新事情を専門的な立場から説明。後半はフロアの参加者との質疑応答が続いた。

■来場者感想：

医療のことがわからないわたしにも、わかりやすくお話し下さりありがとうございました。高校生の途中で妊娠やめていく子もいる職場ですが、いろいろな個人的なおしゃべりの中でもHIVについてなど、これからも話して生きたいと思っています（50代、教育関係）。いかに治療薬の開発が年々なされてきているかがよくわかった。しかし、まだまだ難しい問題はいっぱいです。やはり予防をどうして行くかを同時進行していかなければ・・・（保健医療関係）。一般の人にもよくわかる様にはなされていましたが、きっとこへ話を聞きに来る人にとっては少し物足りないのでは？ 具体的な患者の例（プライベートなことは話さない範囲で）をいくつか取り上げていただけたらもっと興味深く思います（30代、一般）。タイ語の医療通訳をしております。通訳する内容でHIV感染患者が増えてきており、とくに、CD4、ウイルス量の説明と治療内容の説明の通訳が多いのです。中村先生のお話は難しかったですが、とても参考になりました（40代、NGO/NPO）

■連絡先：

東京大学医科学研究所

〒108-8639 東京都港区白金台 4-6-1 TEL:03-3443-8111(代表)



拠点病院での診療
の実際を踏まえ、
HIV/AIDS 診療の最
新事情を...

あなたならどうする？アフリカエイズ紙芝居を使って

■主催：**ジョイセフ（家族計画国際協力財団）**

アジア・アフリカ・中南米地域の女性や子供・家族の健康・地域社会の発展を目指した国際協力を行うNGO

■内容：

ジョイセフは、「あなたならどうする？！アフリカエイズ紙芝居を使って」として、参加型ワークショップを行った。アフリカのエイズの状況を含め、アフリカの村人と共に取り組み、実話に基づいて制作されたエイズ紙芝居のプロセスについて説明後、アフリカエイズ紙芝居「終わらないサヨナラ」を現地で使われている音楽を交えながら上演した。上演後、グループに分かれて、紙芝居のストーリーを通して、アフリカのエイズ状況の何が問題なのかを考え問題分析を行い、最後に授業案を作成した。また、参加者の一部の方に紙芝居を贈呈した。アンケートの結果、参加者の方々から、以下のようなコメント・感想を頂いた。「紙芝居の問題点がよく理解できた」「参加型で自分達が聞くだけでなく考えることができた」「構成・人との対話・紙芝居のプレゼン・討論のやりとり、まとめがよかった」「自分達が考えるという点で自ら学ぶことができて良かった」など。ジョイセフは、紙芝居を通して、アフリカの人々が主人公と自分を自己投影し、エイズ/HIVの病気が特別な病気ではなく、自分自身の身近に存在する事。そしてエイズ/HIVが人々を苦しめているのは、エイズ/HIVという病気そのものだけでなく、HIV感染者・エイズ患者に対する偏見・差別であるということを感じてもらうために草の根レベルで活動を行っている。その活動の一端を今回の参加者の皆さんに体験して頂き、アフリカエイズ紙芝居を使って、授業案づくりを行った。去年に引き続き、今年も参加できた事を大変喜んでいました。今回は、ワークショップのみでしたが、参加者の方々が熱心にワークショップに参加してくださったおかげで、大変良いワークショップになりました。ただし、プログラムが長かつ



たこともあり、ワークショップに最後までいた人数が、少なかったことは反省材料となりました。来年は、今年の反省を生かし、よりよいものにしたいと考えています。ジョイセフでは、エイズがアフリカのみならず国境を越えて、様々な人々にこの問題を自分自身の問題をして考えてほしいと願っています。

■連絡先:

(財)ジョイセフ 住所:新宿区市谷田町1-10保健会館新館

TEL 03-3268-3450 FAX 03-3235-7090 URL: <http://www.joicfp.or.jp>

独りになれない女達

■主催:精神科医師・吉永陽子

吉永陽子は川崎市保健所勤務を経て長谷川病院勤務の精神科医師・AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員 著書・監修『エイズの絵本』(アーニ出版)『病をおこす心病を癒す心』(創芸出版)

■内容:

前半はゲスト衿野未矢氏とのトークセッション。ゲストの衿野未矢氏は、ライター『ひとりになれない女たち』(文春文庫)『依存症の男と女たち』(講談社文庫)他多数。各々現在の活動報告を含めての自己紹介。依存症についての医学的知識の説明。依存症がキーワードとなる衿野未矢氏の本がどのようにできあがったのかを医事監修をした吉永との出会いのエピソードを含めて紹介。編集での裏話や衿野氏の着物姿の謎も判明。後半は、全員参加型で進行。会場の椅子を移動してスペースをつくり境界線を理解するためのボディワークと「NO」とアサーションするためのロールプレイ。まとめの時間では依存症と性感染症の関係について言及した。来場者の感想には、「依存について色々な面での発見があった」「ワークがおもしろかった」等多数あり。

■連絡先:

吉永陽子 勤務先:長谷川病院精神科 東京都三鷹市大沢2-20-36

TEL 0422-31-8600 FAX 0422-31-8878

世界エイズ会議「バンクーバー・ユースフォーラム」の報告

■主催:ICAAPユースフォーラム実行委員会

第7回アジア太平洋地域エイズ国際会議(ICAAP)における、ユース・プログラムを担当する実行委員会。

■内容:

昨年、ICAAPのプレ・イベントとして「ICAAPユースフォーラム2003 in Kobe」を主催した。そこではアジア太平洋地域のユースおよび国内7地方で活動する10代20代の若者の発表・交流会を行った。今年、2003年の活動報告を2004年7月に国際エイズ会議(バンコク)で発表する機会があった。今回の文化フォーラムにおいては、2003年からの一連の活動紹介と、バンコクで開催されたユース・プログラムに焦点をあてて、発表を行った。狙いは、国際会議のイメージづくりと、HIV/AIDS問題に取り組む若者の役割について考えることであった。文化フォーラムでの発表内容は、HIV/AIDSの予防・啓発活動に取り組むユース(15-24歳)の役割についてバンコクで話し合われた事柄を紹介し、私たち自身が、あるいは大人が考えているユースの役割について参加者と意見交換した。国際会議に集まっていたユースは、エイズ政策に対する批判的な視点を持っており、それぞれが建設的なプランを提示していた。今後の課題の一つとしては、既存のユース団体と大人の経験者や専門家の協力体制が敷いていくことで、ユース自身のスキルをつけていくことである。

■連絡先:<http://www.y-aids.org/yahyahyah>



依存症と性感染症
の関係について言
及した。



■発表（教室・ホール）

あらたな薬害がまた…「薬害エイズ」被害者の新たな悩み —重複感染（HIV／HCV）による肝炎問題—

■主催：薬害エイズを考える山の手の会

■内容：

薬害エイズ被害者は、血液製剤によりHIV（エイズウイルス）とHCV（C型肝炎ウイルス）に重複感染した薬害エイズ訴訟の和解によりHIVの治療体制は進んだがHCVの治療は遅れ、現在、HCVに悩んでいる被害者が多く、肝炎で亡くなる人も出ている。被害者本人の日常生活における肝炎に対する悩みを話してもらい参加者と共有する。最初にHCVとその治療方法のビデオと血液製剤によるHCV感染問題のビデオを参加者と見てから、薬害エイズ被害者本人に日常生活における肝炎の悩み等を話してもらい。後半は参加者とともに意見交換。薬害エイズを考える山の手の会では、薬害エイズ被害者本人とこの問題に関心を持つ仲間と同じ社会に住む当事者としてざっくばらんに意見交換している。今回の議論でも被害者本人、医療従事者や様々な立場の参加者から意見交換が出来た。

■連絡先：

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-26-12-103

薬害エイズを考える山の手の会／江川守利

TEL&FAX 03-3364-3733 E-Mail:uy53814@blue.b-city.net

<http://yamanote.hoops.ne.jp/>



彼はセックスをする気満々だが、彼女は…。

タイの農村での参加型エイズ教育～学校編

■主催：特定非営利活動法人シェア＝国際保健協力市民の会

シェアはタイでエイズの活動を行っています。

■内容：

今回はエイズボランティアチームが中心となり、ワークショップを実施した。今回のプログラムは、シェアがタイで行っているワークショップを日本版にアレンジし実施した。若者が中心メンバーの、シェアのエイズボランティアチームHAATAS（ハータス）が中心に企画・運営を行った。始めに「水の交換」を行った。これはHIV感染拡大を模擬的に体験してもらい、誰でもHIV感染リスクがあるということが実感できるものだ。次に班に分かれ、人の行動の書いてあるカードを使い、HIV感染のリスクが高いか低いかを話し合った。最後に、ハータスが劇を披露した。劇の内容は大学生カップルがデートをし、彼の家に行く。彼女が終電を乗り過ぎてしまい、彼の家に泊まることになる。彼はセックスをする気満々だが、彼女は先日友達が性感染症になったという話を聞いていて、心配だ。彼はコンドームを付けることを考えていない。この後はどうなるか、この劇の中の問題は何かを参加者に考えてもらった。なるべく自分たちのエイズについての価値観を前面に押し出さずに、参加者には考えてもらう材料のみを提供しようと心がけている。そのことにより参加者が色々な価値観にふれ、自分の価値観を見直してエイズについて考え、行動できるのではないかと考えている。

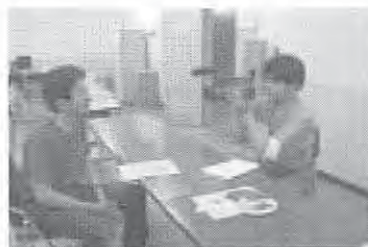
■連絡先：

〒110-0015 東京都台東区東上野1-20-6 丸幸ビル5F

TEL 03-5807-7581 FAX 03-3837-2151

E-mail:info@share.or.jp <http://share.or.jp>

（特活）シェア＝国際保健協力市民の会 タイ事業担当 西山 美希



せかみ10周年報告～横浜会議を振り返る～

■主催: せかんどかみんぐあうと

当会はサポートからエイズ問題に関する取り組みまで幅広く活動するHIVポジティブ中心のグループです。

■内容:

今回は、文化フォーラムの10周年にあわせ、この10年の経験からこれからのエイズを考える企画を4部構成で行ないました。まずは、掛け合いで、90年代前半までのエイズをめぐる状況を振り返り、当時の課題について考える企画を行いました。絵や写真、当時の新聞記事なども使い、当時の大変な状況を提起できたと思います。2つ目は、94年に横浜でおこなわれた国際エイズ会議について、委員の一員として考えてきたポジティブからの話をしました。ポジティブが果たした役割と、エイズ問題において、ポジティブの存在がキーとなりうるのだという話を主に伝えました。3つ目は、この10年間のポジティブの活動を振り返り、今後、ポジティブとの共生というものをもっと意識した取り組みが必要となっていることを訴える企画でした。これまでの当会の取り組みを中心に振り返り、ポジティブとして活動していく困難などもあわせて伝えました。そして、4つめは横浜国際エイズ会議とその前年のベルリン会議の様子をスライドを用いて紹介する企画です。会議の様子や、様々なNGOの取り組みを併せて紹介できた企画になりました。

■連絡先:

〒164-0012 東京都中野区本町6-12-11石川ビル2階

TEL 03-5385-0542 FAX 03-3229-7884

E-MAIL sco@kt.rim.or.jp 代表者 大石敏寛



体調のいいのは“薬が効いているから”を忘れてはいけない...。

「なぜ薬が飲めないの？」 「AIDSのアンケート」

■主催: ぼーとたまがわ

HIV感染者を直接支援している団体です～プロの作る、おいしい料理を囲み病気やその後の人生を語り合っています。

■内容:

「なぜ薬が飲めないの？」 主な内容として～

- ある感染者の方が「カポジ肉腫」を発症して、治療を行い現在は落ち着いているが、発症したその理由の一つに、薬を飲んでいなかった期間があった。
- 飲まなかったのは、金銭～経済的な理由という、現実的な問題があった。
- また、他の方は仕事などに熱中して、時間通りに飲まない時があるとのこと。
- それも、体調がいいから、ついつい、という傾向があるようだが、その体調のいいのは“薬が効果的に効いているから”を忘れてはいけない、とのコメントがあった。 他～

「AIDSのアンケート」 主な内容として～

- 若者に向けて、独自のアンケートを作り実施した、その結果の発表。
- 若者が多く学ぶ専門学校「東京調理師専門学校」生徒「396名」より回答。
- 独自、と言うのは実は、アンケートの項目を読み進んでいるうちに、AIDSの知識が自然に入る、という工夫がされている点である。 他～

■連絡先:

電話相談「こころのホットライン」

毎週火曜日 19:00～23:00 TEL:044-900-9180

メールアドレス:amma@dg7.so-net.ne.jp



■発表（教室・ホール）

「向日葵」上映会／セクシャリティーとAIDS

■主催：横浜Cruiseネットワーク

神奈川県内のゲイコミュニティを対象としたHIV予防啓発を行うために2002年に設立

■内容：

1980年代後半の実話をもとに、2004年名古屋の「NLGR2004」が自主制作した映画「向日葵」の上映と、「ゲイとエイズ」をテーマにトークセッションを行いました。エイズ患者であるゲイの主人公がパートナーである男性の母親と一つ屋根の下で暮らしながら治療をつづけたという、今でも考えられない話。主人公が亡くなった後も彼は母親の面倒を見ながら一緒に暮らすといった奇跡的な実話。トークセッションでは、10年前の実話を紹介しながらエイズ患者・家族の置かれる環境がいかにひどかったか話し合いました。また、若年層の性生活の実態について話し合った。最近では、インターネットの掲示板や新宿二丁目の街には多くの高校生が見受けられる。このような実状に即し、ゲイを視野に入れたエイズ予防のための授業を高校でも行う必要があるという意見が出された。

■連絡先：

横浜Cruiseネットワーク E-mail: info@y-cru.com URL: http://www.y-cru.com/



エイズ患者・家族の置かれる環境がいかにひどかったか...

HIV/AIDS教育で使いたい教材づくり Power Point教材差し上げます。

■主催：地域医療振興会 岩室紳也

■内容：

HIV/AIDS教育の必要性を理解し、実践しようとしても具体的にどのような教材を使い、どのように組み立てていけばいいのかわからないという声が少なくない。HIVに感染している人との共生、HIVに感染しないための予防方法、実際にパートナーと予防についてコミュニケーションを図る方法、性を具体的にどう語るか、等々実際にHIV/AIDS教育を始めようとする戸惑うことが少なくない。岩室自身は、中学生、高校生に語る時に、実際に友人でHIVに感染している人との交流や診療の現場で患者さんから学んだことを織り交ぜながら講演をしてきた。しかし、そのような経験がない、あるいは少ない人にとって実際に自分自身がHIV/AIDS教育を実施する時にはそのままを活用することは難しいという声が少なくない。今回、HIV/AIDS教育用に作成したPower Pointを用いた授業の実際を紹介するとともに、そのPower Point(紳也's HPからダウンロード可能)を希望者に無料で提供した。

■来場者感想：

基礎講座の話と同じだったのですが2回目は話の中身というより話し方やテンポ、パワーポイントの使い方などに注目できました。会話形式(ひとりがたり会話でも)ずっと入っていると感じました(50代、保健医療関係)。学生への性教育をするのにどのような教材を使用し、どのように教授したらよいかという点に悩みもあった。STD、HIV/AIDSそのものを教えるのではなく性=生ということをおしえなければと常々思いつつも、そこまで思いが届かない、届いていないように思える。今回Power Pointをダウンロードし、早速使用して一人でも多くの学生へ伝えたい(20代、教育関係)。性教育を考える上で道徳という専門外の分野について気後れしていた部分がありましたが、体験談、事例の活用でカバーできると思いました(20代、保健医療関係)。人と人とのコミュニケーション能力という



観点でAIDS教育を考えたことがなかったので新しい発見でした。目からウロコという状態でした(20代、保健医療関係)。

■連絡先:岩室紳也:

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-1 日本都市センター9階 (社)地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター TEL 03-5275-1051 FAX 03-5275-1052

E-mail: shin.iwamuro@nifty.ne.jp

紳也' Shp <http://homepage2.nifty.com/iwamuro/>

「100人の村～AIDSバージョン～」

■主催:YMCA ACT

■内容:

書店で、「もしも世界が100人の村だったら・・・」という本を目にしたことがありますか？横浜YMCA ACTでは、「もしも世界が100人の村だったら」のワークショップを行なっています。目で見て、実際に身体を動かして世界の人口・男女別・年齢別・大陸別・貧富の差等を知ってもらう機会を設けています。今回は、AIDS版とし「AIDS/HIV感染者が100人の村だったら」と題し、「もしも世界が100人の村だったら」の通常ワークショップも交え行ないました。AIDS版では、AIDS/HIV感染者の人口・男女別・年齢別・大陸別・カクテル療法が受けられる人/受けられない人をクイズ形式にし、わかり易くワークショップを行ないました。「AIDS/HIV感染者が100人の村だったら」のワークショップを行なうにあたり、AIDS/HIVの知識がほとんど無いメンバーで作成をした。今回のワークショップで参加者の方の意見を参考にし肉付けをしていき、今後につなげて行きたいと思いません。

■連絡先:

YMCA ACT(横浜西口)

〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町2-25-1

TEL 045-316-1881/FAX 045-314-6805

http://www.yokohamaymca.org/ymca_act/index.htm



コミュニケーション能力という観点でAIDS教育を考えたことがなかったので、目からウロコという状態でした。

コラム-AIDS文化フォーラムin横浜

参加団体からフォーラムへのメッセージ (抜粋)

◇フォーラムから多くのパワーをいただきました。来年の神戸会議に活かしたいと思えます。(神戸YMCA BASEKOBE)

◇エイズ問題に関してもプレイバックシアターが有効だということが確信できました。(プレイバックーズ)

◇今年初参加で、よそ者扱いされたらどうしよう・・・などと心配していたのですが、そんな心配は全く無用でありました。閉会式にはお話をする機会を頂いたり、参加者を無視しないこうしたイベントの存在はつくづく大きいと実感しました。(Reminders Project)

◇どんな問題もどこかはつながっている。「文化」に込められた思い大切です。(主張するTシャツの会)

◇初めての参加でしたが、様々な団体の活動を知りとても勉強になりました。(国境なき子どもたち)

◇「継続は力なり！」今回で11年目！若いボランティアが頼もしいですね！(性を語る会)

◇コンドームさえすれば解決する訳では決していないので、いろんな角度からのアプローチが必要だし、その中心がフォーラムであると思えます。(ぼーとたまがわ)

◇「フォーラム」の文化に今年ほど励まされた年はなかったように思います。(Child Sexuality Research)

◇今回はユースだけでなく、大人の層に向けても発表ができ、収穫がありました。(ICAAP)

◇学校での性教育が難しい中、多くの若者が参加し、AIDSに関する知識や行動が身につく事を願います。(「人間と性」教育研究協議会かながわサークル)

◇HIV感染症には、まだワクチンがありません。「正しい知識とそれに伴う行動」が体を守る唯一の方法です。メッセージを発信しつづけてください。(国立医療センターエイズ治療・研究開発センター池田和子)

■発表（教室・ホール）

心と心をつなぐ腹話術～教育プログラム～

■主催: JOINT HEART

思いのまま感じたことを伝えるために腹話術を用いたコミュニケーション教育プログラムの活動を行います

■内容:

心と心をつなぐ腹話術～教育プログラム～[はじめに]エイズや結核は現在でも多くの健康被害者をだしており軽視できません。2010年頃に爆発的発生が予想されています。なんとか防ぐことはできないでしょうか。[目的]①性感染症の予防②結核の予防③健康腹話術の普及④行政の立場でなく、行政にできないすきをうめる。[対象]①小学生②中学生③青少年④高齢者[ねらい]①自分の誕生や男女の違いを正しく受け止め、生き物の誕生や成長にも気づき、いのちの尊さを感じとる。②男女には、それぞれ違いがあるが、どの友達も同じように大切であることを知り、友達を思いやる心を育て、将来の男女の人間関係の基礎を築く。[プログラム]①教育プログラムvol.1:思いやる気持ちの気づき「なんでお花が咲くのかな?こうのとりはどうして赤ちゃんを運んでくるのかな?」②わらってげんきになろう。みんなで腹話術にチャレンジ!!③教育プログラムvol.2:思いやりから愛への気づき「相手を好きになることから自分を好きになることへ」[評価方法]①アンケート②自己評価③第三者評価[まとめ] HEALTHY HAPPY FORUM

■連絡先:

代表者 畠山雅行 FAX 0743-78-9841
E-mail:m-hatake@m4.kcn.ne.jp

子ども買春とエイズ

■主催:ふれきしぶる（ユニセフ支援市民グループ）

ユニセフ支援活動（街頭募金、写真展、講演会、出前授業など）を始めて8年目、子どもの権利を伝える活動にも力を入れています。

■内容:

<発表>体験型セミナー～「エイズと子どもの権利」～参加者を1つの村の住民と仮定し、一人ひとりがそのコミュニティのなかで幸せに生きていくには・・・との問い(実際はもっと具体的)に対して、グループディスカッションをし、知恵を出しあい発表していくというセミナーでした。「参加する自由」と「参加しない自由」があることを事前に皆が了解し、ディスカッションは進みました。強い人権意識を持ったファシリテーター森田明彦氏(子どもの権利総合研究所研究員、前日本ユニセフ協会広報室長)ならではのスタート。「・・・結局、近代社会が生み出した個人主義のマイナス面である利己主義が、内外のエイズ問題の背景にある(森田)」という切り口でこのアクティビティを行なわれました。参加者(約36名)は与えられたテーマについて真剣に話し合いました。そして、一人ひとりが家族を含む隣人に対して関心を持つ、関わり合いを持つことが重要であり、それが世界のエイズ問題解決へ繋がるのではないかという結論へ。あらゆる問題の根底にあるコミュニケーションの大切さを、改めて深く感じた尊いセミナーでした。Jrたちの感想は「現代の高校生にとってエイズは避けて通れない問題。関心を持ち続けよう!」「正確な知識を持ち、差別や偏見をなくそう!」です。グラフを見ていく人たちの真剣な表情が印象に残っています。

■連絡先:

ふれきしぶる
TEL/FAX045-785-9510(西尾) E-mail:flexible@mail.goo.ne.jp
URL:更新中(「ふれきしぶる」で検索可)



高校生にとってエイズは避けて通れない問題。関心を持ち続けよう!



Hシジョウ主義～ファッション誌における性情報

■主催:CAI(Campus AIDS Interface)

■内容:

スタイル:全員参加型。目的:今日多くの女性ファッション誌で多用される「モテ」「愛され」という言葉に焦点を当て、女性ファッション誌における性情報の増加、描かれる女性の受身性、性行動への結びつきなどの説明。グループワークでは実際に性に関する誌面を参加者に作成してもらい、安全な情報をファッション誌の中で伝えることの難しさを考えてもらう。実施内容① 事前に机を五つに分けて用意して、入室した人を誘導。② 全体の流れ説明・メンバー紹介。③ 最近のモテブームを知人の話や資料からクローズアップ。④ モテが中心となる雑誌から性に関する誌面をOHPで紹介。⑤ <グループワーク>グループワークの内容説明。「真夏の〇〇特集」誌面作成。休憩※ 休憩時間内に学生は審査員として前にでてきてもらい、メンバーと共に審査した。ロビーから小学生も呼び、小学生・高校、大学生とそれぞれ別々に審査した。審査発表Ⅰ 人気があった誌面発表—担当したグループの意見・感想。Ⅱ 不人気だった誌面発表—担当したグループの意見・感想。Ⅲ その他3グループにコメント—担当したグループから一言。⑥ ワークショップの感想・総評。⑦ まとめ 学校の性教育の不足が背景にある。雑誌なども授業で取り扱ってみてはどうか? 現在、若者の性教育はメディアから。メディアリテラシーを身につけることが重要。まずは若者と同じ目線で、かわいい・楽しいを中心に啓発を取り組んでいく。(CAIメンバーが作成したフリーペーパー「ゴムを忘れたシンデレラ」紹介)。年代、性別が違って、批判のための批判ばかりでなく、多様な価値観・視点の共有を。大人もファッション誌やエロ本を、子供と一緒に話し合っていくことの大切さを提案。発表成果:最初は「モテ」や雑誌の偏った性情報に不信感を抱いている人が多かったのと同時に、この新しい「モテ」という言葉に戸惑っている人もいた。グループワークになると、最初は初めての試みなので「性の誌面を作る」ということに抵抗感を表す方も多く、まずは性という問題が若者の読む情報誌の中でどう取り上げられるべきかを議論してしまい、中々ペンを持つまでに時間がかかっていた。しかし一旦ペンを持つと、議論するだけではわからない、実際に編集する難しさがでてきたりもして、グループによってそれぞれ活発な誌面作りがなされていた。1位を勝ち取った誌面は「真夏の禁欲特集」という「モテ」や「Hをすべき」という現在雑誌で主流になる内容の真逆をいくもので、「モテなくてもいい」「Hしなくてもいい」という選択肢を、無理なくおもしろく紹介していた。2位は「真夏のAV裏側特集」と題して、AV俳優や女優も抗体検査にいつていること、コンドームを使用していることなど、安全な情報を退屈なものにせず、工夫して紹介していた。驚くべきことに審査をした小学生たちは、3・4位に入っていた若者にウケることだけに捕らわれすぎた「モテ」が中心の誌面づくりを「これくらいなら本屋の立ち読みで十分」と評し、参加者とともに発表者たちも腰を抜かした。それと同時に、現在「モテ」「愛され」を使えばいいと思っている雑誌の編集者側に対し、「もうモテばかりではうんざり」という若者の現実のリアルな声が浮き彫りになり、一つの価値観に偏らない、多様な考えが必要であることをCAIメンバー含め、参加者全員で考える事ができた、実りあるワークショップだった。

■連絡先:<http://www.cai.presen.to/>



驚くべきことに審査をした小学生たちは、「これくらいなら本屋の立ち読みで十分」と評し...



■発表（教室・ホール）

はじめの一歩は知ることから！

■主催：日本国際連合学生連盟共同研究プロジェクト

ユースの立場で多分野の国際会議に参加し、研究・イベント開催などを行うUNSAJの特別プロジェクト。2004年前期に国際エイズ会議に参加しました。

■内容：

高校生大学生を対象に、第15回エイズ会議に参加したメンバーの会議報告と、参加者の体験をもとに、日本におけるエイズ教育について話し合いました。どのような内容でエイズに関わる教育を受けたのかなど、自分の経験を改めて整理した上で、考えを共有しました。最後に、各グループで出した意見を発表し、若者という立場からエイズ教育について提言文を作成しました。内容は、1.個人間で格差があるので全体に認知される教育が必要ではないか。3.(HIV/AIDSを身近に感じる)きっかけが必要ではないか。4.自主的にエイズに取り組んでいくこと、そしてその機会を設けることが必要ではないか。5.体験教育(講演会など)も必要ではないか、6.感染者の社会参加についてもっと知る必要があるのではないか。9.マスメディアを通じた教育がもっとあったほうがいいのではないか。12.性教育の中だけではなく、社会問題(人権など)として、道徳・社会の授業等であつかうといいのではないか。16.家族・身近な人の中で知識を共有する必要があるのではないか。など16項目でした。ユースとして、エイズについて考えることの大切さを伝え、参加者と一緒に考えていくことができました。

■連絡先：

日本国際連合学生連盟共同研究プロジェクト 代表者 藤田忠義
E-mail: kokurenken@infoseek.jp <http://members.at.infoseek.co.jp/unsajp/>



若者という立場から
エイズ教育について
提言文を作成

北タイのエイズ問題と子どもエンパワーメント

■主催：神谷祐介（元CAREタイランド・スタッフ）

1976年愛知県生まれ。2001～2004年、国際NGO「CARE」タイ支部にて常勤スタッフ。北タイにて教育支援やAIDSに関わるプロジェクトを担当。2004年に帰国後、NGO「NAPジャパン」設立。

■内容：

今回の報告では以下のようなことを行った。1. マインドマップ。参加者1人1人に「エイズ」という言葉から連想する事柄やイメージをカードに書いてもらい、それを順々に模造紙に張っていくゲーム。この活動によってエイズが教育、社会経済、文化、メンタル面などいろいろな事柄と絡み合っている問題だということを参加者は実感することができた。2. 北部タイ・パヤオ県のエイズ問題。北部タイ・パヤオ県においてHIV感染率が高いという現実、およびその構造的な要因について図を用いて説明した。3. パヤオ県における子どもエンパワーメントについてエイズの構造的な要因の解決に向けてCAREタイランドが行っている「子どもエンパワーメント」というアプローチを、図や写真などを用いて詳しく説明した。農村にある「オーの家」という子ども活動センターでの小中学生による取り組み、その活動成果であるかみしばいを紹介した後、最後に10分間のビデオ上映を行った。参加者はのべ20名ほどであり、タイ、エイズ、子どもというキーワードに興味がある、もしくは実際に活動をしている方々であった。報告者が取り組んでいる「子どもエンパワーメント」をエイズ問題の解決につなげるというユニークなアプローチに理解、そして共感をしていただいたと思っている。

■連絡先：

神谷祐介 NAPジャパン メール:kamiya@napjapan.org
ホームページ:<http://www.napjapan.org>



エイズ教育の10年を振り返る

■主催: **安藤晴敏・岩室紳也**

■内容:

1994年に横浜で国際エイズ会議が開催されてから、全国的に学校現場で「エイズ教育」が行われるようになってきた。最近の小学校、中学校、高校の教科書に記載されているエイズに関する記述や、10年前から現在まで、学校現場で使われてきた指導案、等を紹介しながら、エイズ教育が学校現場でどのように変遷したかを紹介した。さらに、前日実施された「文科サイドと厚労サイドの連携—学校教員と地域保健担当が行う授業連携の実際—」の内容の一部を踏まえ、安藤は保健体育の教師として当初はHIV/AIDSの科学的な事実を紹介していただけだったが、自らの病気や長年にわたるHIV(+)のパートナーとの交流から得た「生きる」ことを授業の中で伝えるようになったことを紹介した。岩室は、正確に伝わっていなかった感染に関する科学的な事実やコンドームの正確な情報を伝えていたが、最近はそのだけでなく、一人ひとりの感染している人達が教えてくれること、例えば夫婦での感染が増えているが、まさか相手が感染しているとは思えない性感染症の難しさを伝えるようになったことを紹介した。

■来場者感想:

教育現場最前線のご苦勞が偲ばれました。安藤先生のパワーは死を見つめられてからの生きる力だとわかりました。“子どもたちに愛を上げてください”のひとつが貴いと思いました。愛される子ども(関心を持たれた)は人をやさしく愛することが出来るのだと(60代、主婦)。一番よい教材はその教員の生き様だという言葉が印象的でした。私はアルバイトで学童保育所に行っていますが、真剣に子どもと向き合って話すと、それが子どもに通じているということを感じます(20代、学生)。結果的な話が多く、又、内面的な内容があまりなかった。性ほどこまでも心から始まる行為であると思います。子どもたち、学校教育には是非そこを強調して教育してほしい(60代、NGO/NPO)。これからのAIDS教育の方向性がみつきりそうです。「自分はどう生きるか」など考えさせる教育をすることではないかな(50代、教育関係)。

■連絡先:

安藤晴敏: 神奈川県立津久井高等学校

〒220-0209 神奈川県津久井郡三ヶ木272-1

TEL 042-784-1053 FAX 042-784-7960

岩室紳也: (社)地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-1 日本都市センター9階

TEL 03-5275-1051 FAX 03-5275-1052

E-mail: shin.iwamuro@nifty.ne.jp

紳也's HP: <http://homepage2.nifty.com/iwamuro/>

少女たちはなぜHを急ぐのか

■主催: **高崎真規子**

■内容: 著書「少女たちはなぜHを急ぐのか」(NHK出版)の取材を通して見えてきたことを紹介した。少女たちは、セックスを謳歌しているのか? 未来に夢を描けない不安のため、若さと性にしがみついているのか? 本の目次より、少女たちの肖像(初H・二〇歳過ぎたら終わりだよ・彼氏と愛とセックスの関係・セフレはあり?・エンコー、今と昔・結婚と夢と未来と)。周囲から見た、少女たちのH事情(至近距離から見た彼女たち・すぐ隣にある誘惑・性感染症がそこまで迫っている・無知なセックスによる妊娠、中絶・親たちの困惑・やっぱり性教育は必要です)。

少女たちは
なぜHを急ぐのか
高崎真規子



まさか相手が感染しているとは思えない性感染症の難しさを伝える…。



■発表（教室・ホール）

学校や地域で役立つ朗読ワークショップ

■主催：岡島龍彦 H.I.Voice Act

HIV/AIDSに影響を受けた様々な人たちの文章を朗読することで、エイズを自分自身の生き方の問題として理解するワークショップを行っています。

■内容：

学校や地域で開催している朗読ワークショップを体験してもらいながら解説することで、各地での広がりを期待しました。同じタイトルで何年か継続して開催してきましたが、特に今年は、小学生から60代までの幅広い世代で、同じ思いと時間を共有しました。幾つかのアイスブレイクを行い、リラックスした後、Voice誌に投稿された文章の中から、親子、兄妹、友人、夫婦といった誰でもがイメージできる関係を抜粋して、読んでもらい、意見交換を行いました。皆で心の震えが伝わる体験や、小学生の前向きな意見に感動したり、それぞれが「違い」を持つという意味で対等な関係で、場を持つこと、感じ合えることの大切さを実感できました。学校での活動の様子をビデオで観てもらい、より確実に手法を伝えるとともに、最後は、ブラインドウォークなどを体験し、一緒に歩む仲間の実感を、終了しました。

■連絡先：

岡島 龍彦 iptel 045-900-5040 e-mail tatu-hiko@mpd.biglobe.ne.jp



大学院の時、突然感染を告げられ、彼女と2人パニック状態になり...

即興再現劇を使い、AIDSを共に考えよう

■主催：プレイバックーズ

観客の話をその場で即座にパフォーマンスとして演じる、即興劇を上演する劇団。

■内容：

HIV感染者を招き、その体験談を即興劇として演じた。参加者は30人ほど。最初にゲームで参加者の緊張をほぐし、そのあと、3人の感染者と1人の活動家の話を演じた。プレイバックシアターは、布と椅子、音楽のシンプルな舞台上で演じられる。話を聞くコンダクター、楽器を扱うミュージシャン、そして演ずるアクターが話をするテラーの気持ちを演劇という形で本人、観客に届けるもの。これまで様々な社会問題を扱っている。一例として、テラーAさんの話。大学院の時、突然感染を告げられ、彼女と2人パニック状態になり、生きる事を諦めた。そんな時子供ができ、母子ともに感染を免れていた。「産みますか？」の言葉に世界が一変し、未来へと生き始めた。このような深い内容であった。他のプレイバックのセッション同様、今回も観客は感染者の持つ感情を自然に受け入れ、深く共感している様子が見られた。また、そのことにより、感染者は自分を肯定し、励まされた様子であった。最後に「社会がこうあってほしい」ひとことコメントを募ると、「否定しない社会 理解しあえる 同じ人間なんだ イエス」などの言葉が観客から寄せられ、それをアクターがパフォーマンスし、大きな拍手でエンディングとなった。詳しくはHP、エイズ関連コーナーにて。

■連絡先：

プレイバックーズ 〒233-0011 横浜市港南区東永谷1-15-30-305

TEL&FAX 046-873-2521

www.playback-az.com

代表 宗像佳代 エイズフォーラム担当者 佐藤久美子



find true love

～医学生によるpeer educationの効果と実践～

■主催: IFMSA-Japan(国際医学生連盟 日本)

～SCORA/性と生殖・AIDSに関する委員会～

IFMSA-Japan(国際医学生連盟 日本)は、医学生を代表する国際フォーラムとして認められた国連NGOの日本支部である。

■内容:

今まで私たちが行ってきたワークショップの再現・実践という観点から、主に(1)性に関する正しい知識や情報 (2)性のトラブルにどう対応すればよいか (3)さまざまな年代における性に関する意識を話し合う 以上の3点に的を絞ったワークショップを行った。具体的な内容は以下の通りである。ワークショップの説明。参加者:約30名スタッフ:札幌医科大学6名、北海道大学1名、相模台工業高校1名、北里大学1名、計9名。1、はじめの挨拶。IFMSA-Japanの紹介・普段の活動・このワークショップの実施についてなど。2、アイスブレイキング～感染が広がるゲーム～いかに性感染症・HIV感染の広がりというものが恐ろしいかを紙コップと色紙を使用したゲームを通じて体験してもらう。3、知識提供型クイズ ①・性感染症・エイズの知識に関するクイズ(5問) ②・エイズ患者と社会に関するクイズ(4問) ③・コンドームとピルに関するクイズ(6問) 計15問 その他:用語集を用いた。4、コンドームについての知識。コンドームについてのクイズ・紹介・知識提供。5、心理テスト。6のディスカッションのグループ分けを行うために、セックス・性に対する興味などについての心理テストの結果を用いた。6、ディスカッション～コンドームを使ったSEXのイメージ～1人が4個ずつ「コンドームを使ったSEXのイメージ」を書き出し、それらをいやらしい・健康的・気持ちいい・気持ちよくない、という4つの方向性に従い分類した。

■連絡先:

HP:<http://ifmsa-j.umin.ac.jp/>

<http://scora.umin.jp/>

ML: ifmsa-japan@yahoogroups.jp

Scora-japan@yahoogroups.jp



多発する紛争や災害の犠牲者よりも多くのエイズ患者が死に至っている。彼等は『数字』ではない。尊厳を持ったいのちだ…。

コラム-AIDS文化フォーラムin横浜

世界とエイズ

フォーラム展示場の入り口で、映像と音楽が多くの人を引きつけた。

The Body ShopとMTV Japanが企画した「エイズ撲滅チャリティコンサート 46664」のビデオ放映だった。

昨年の世界エイズデーに南アフリカで開催された「46664」は、様々な著名なミュージシャンがエイズに関するメッセージを力強く訴えていた。何よりハイライトだったのは、ネルソン・マンデラ氏の登場だ。自らの囚人ナンバー「46664」を冠した同コンサート。「世界各地で多発する紛争や災害の犠牲者よりも多くのエイズ患者が死に至っている。彼等は『ナンバー(数字)』ではない。尊厳を持ったいのちだ」と語ったマンデラ氏の言葉は、聴衆の心深く響いた。

世界中で4600万いやそれ以上とも言われるHIV/AIDS患者・感染者。数字では表せない苦悩と絶望

が存在する。私たちはそのことに対して「傍観者」であってはならないと強く思う。

戦争・紛争、自然災害、貧困を始め様々な構造的な暴力が数知れないいのちを危機にさらす。UNAIDSを始め多くの国連機関はその枠組みを超えて、エイズへの取り組みの緊急性を叫んでいる。多くのNGOも同様である。世界中のどこかで身近なすぐ側で、誰かが誰かの助けや支えを必要としている。

世界の現実の一方、先進国の中で唯一感染増加が進み、十代のエイズ問題の深刻化が懸念される日本。「対岸の火事ではない」ことは言うまでもない。地球規模のSOSをしっかりと心にとどめ、「市民の市民による市民のためのAIDS文化フォーラム」を通して、一人でも多くの人々と共にこの問題を考えていきたい。

(AIDS文化フォーラム運営委員会)

■発表（教室・ホール）

後藤勝スライド上映会

Who Cares? They do care! カンボジアとエイズ

■主催：後藤勝・由美（Reminders Project）

Reminders project（「思い起こさせる（或いは気付かせる）人・物・事の意」）は2000年に発足したプロジェクトです。独自の視点を持って取材活動を続けるフリーランスフォトジャーナリストによって、「世界で何が起きているのか」を伝えて行く事を目的としています。『広く伝える』『様々な視点を求める』事を基本とし、発表の拠点やスタイル、写真家の国籍、キャリア等にこだわらず活動を続けています。

■内容：

Reminders Project企画 後藤勝のスライド上映会 who cares?, They do care! フォトジャーナリストとしてカンボジアのエイズ問題を撮り続ける理由今プレゼンテーションは2004年7月に開催予定の世界エイズ会議（タイ・バンコック）において開催されるワークショップで上映されるのと同じ内容のもので、カンボジアのエイズ問題の現状をスライド上映で報告すると共に、フォトジャーナリストとして、この問題を撮り続けるのはなぜか？と言うところに焦点をあて、きっかけになったキーパーソンを紹介しながら、司会を交えてトークショーを行いました。

■連絡先：

Reminders Project 後藤由美
<http://www.ne.jp/asahi/site/myp>
 remembers@freeml.com

セクシュアリティの多
 様性や多様な価値観
 を認識する上で欠か
 せないものは何なの
 か？

セクシュアリティ入門～性教育の基礎～

■主催：ライフ・エイズ・プロジェクト（LAP）

主催者の紹介：HIV感染者・エイズ患者への社会的支援活動を行なう非営利団体（NGO/NPO）として1993年設立。

■内容：

講師 木谷麦子 LAPニュースレターで「知ったつもりでいるあなたのためのセクシュアリティ入門」を好評連載中の木谷麦子氏を講師に迎え、「教育をどう考えていったらいいのか」について取り上げた。セクシュアリティの多様性や多様な価値観を認識する上で欠かさないものは何なのか？ 講師の体験を含めてお話しいただき、またセクシュアリティについてなるべく分かりやすく解説する入門編も含めて行った。後半は講師を囲んでのディスカッション、意見交換を行った。

■来場者感想：

来場者からは「後半のグループになっての話し合いが、その人の個性、考えが見られてとてもよかった」（50代・教育関係）、「小さい時からいろいろな場面でセクシュアリティを教えていく必要を感じた」（40代・教育関係）、「性教育について自分と同じ疑問を持つ参加者の方がいて少し安心しました。でも、先生の発想と論理にはビックリしました。私ももう少し言葉を使えるようになりたいと思います」（20代・学生）、「今抱えている問題解決の糸口が少しみつかった気もしますが、まだまだ道のりは長い。根気強くやっていくものだ改めて感じました」（不明）

■連絡先：

〒100-8691 東京中央郵便局私書箱490号
 TEL 03-5685-9716 FAX 03-5685-9703 E-mail:lap@lap.jp
 URL:<http://www.lap.jp/> 代表者氏名 清水茂徳



市民の目線で見るとHIV性感染症予防ボランティア

■主催:神戸YMCA 性感染症予防啓発ボランティアBASE KOBE

来夏に神戸で開催される第7回アジア・太平洋地域エイズ国際会議に向けて市民への啓発活動を進めている。

■内容:

わが国で最初の日本国籍女性エイズ患者が神戸で報告されてから17年が経過し、検査方法・治療方法が進んだにも拘らず、HIV陽性者の数は増加し続けている。なぜ増加し続けるのかを考えた時、情報の発信が少ないからだという思いが少なからずある。しかし、本当に情報量の問題だけで、HIV感染の拡大を押さえることが可能であるだろうか?知識を増やせば感染は拡大しないだろうか?また、私たちエイズに関わるNGOは、正確な情報を市民社会に伝えているだろうか?答えはNOである。私たちが流しているメッセージの中には、ネガティブなものが散財している。それは、HIVを減らすどころか、増加を助長している可能性があると思われる。例えば、HIV陽性者の声を聞きたいという人々の多くは、自立していない陽性者の苦しみを聞くというシナリオを期待していることが少なくない。HIV陽性を取り巻く差別や偏見を当事者から聞いて、弱い立場の人だから理解し支援しなければならないと結論づけるのは危険である。なぜなら、人は弱い立場になりたくはないからだ。HIVに感染すれば社会から追いやられることを強調すれば、検査を受けることの妨げになる。「エイズは、予防できる病気です。」とメッセージは、感染者は予防しなかった人になってしまう可能性が否めない。「不特定多数は感染しやすい」では、性の乱れをHIV感染の増加の要因にして、大事なコンドームの使用という視点が欠落している。不特定多数でもコンドームをすれば感染しないし、特定少数でもコンドームをしなければ、感染の可能性はある。「HIVは感染力が弱く、日常感染はしない」というのも正確ではない。HIV感染の急性期は、ウイルス量が多く感染力も決して弱くはないし、私たちの多くは、日常的にセックスをしている。つまり、HIVは、防ぎにくいという発信が必要である。私たちは、「HIVとともに生きる社会」を目指しながら、ともに生きにくい情報を流してはいないだろうか?HIV・パラドクスを理解し、真にHIVと向き合う社会を構築するために、市民活動は、今、新たな視点が必要とされている。

■連絡先:

事務局 〒658-0052 神戸市東灘区住吉東町2-5-15 黒川七津也
TEL078-851-2723 E-mail base_kobe@ybb.ne.jp
<http://www.kobestory.com/basekobe/>

HIV陽性者ミーティング-ゲイ陽性者のセクシュアルヘルス向上-

(非公開・陽性者限定)

■主催:JaNP+ (ジャンプ・プラス)

HIV感染者・エイズ患者のネットワーク組織 代表:長谷川博史

■内容:

JaNP+が開発したHIV陽性者のセクシュアルヘルス増進プログラムの一部を実施。これは参加型ワークショップで自分の性行動の振り返りを目的としたもの。参加者にはSTIの基礎知識に関する情報を配布。

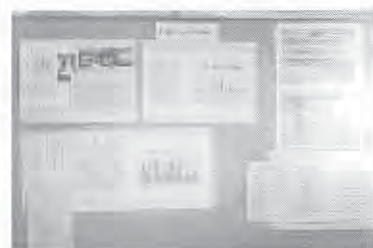
◇展示プログラム「フェアトレードバザール」

アジアのHIV陽性者のドキュメンタリー「Quiet Storm 静かなる嵐〜」DVDプログラムを展示しながら、アフリカやアジアのHIV陽性者支援のためのフェアトレードを開催しました。みなさまのご協力に感謝いたします。

■連絡先:ジャンププラス=電話03・5367・8558、Eメール info@janplusplus.jp



「HIVとともに生きる社会」を目指しながら、ともに生きにくい情報を流してはいないだろうか?



■発表（教室・ホール）

性意識の形成

■主催：“人間と性”教育研究協議会かながわサークル

性や性教育について学びたい、指導者として力をつけたい、そんな要望に沿って活動しています。

■内容：

今、若者を取り巻く性情報は好ましいー好ましくないに関わらず、湯水のごとく溢れています。今、小中高校生に読まれている本・雑誌・コミック等を参考資料として見てもらいながら、ワークショップを体験してもらいました。テレビ番組の変遷や、コマーシャルのキャッチコピー等、参加者が思春期だった頃と比べると、あまりの違いに戸惑いの声がかれました。この性情報が個々の性行動に深く関わっている事も考えてみました。「初めて会った人とSEXできますか？」等ストレートな質問をお互いに交わしながら、性情報・性意識・性行動について意見交換が活発に行なわれました。休憩時間も熱心に語り合う等、参加者数は多い方ではなかったと思いますが、意識の高い方が多かったので、ワークショップ形式は、色々な意見が聞けて主催している私たちもとても楽しく、充実した時間を共有できました。学校で実施されている(勉強した)性教育についても意見交換ができ、参加者から学校での性教育への期待の声もあがり、バッシングの風当たりが強い現場の教員は勇気づけられました。展示は場所も良く、手作りの性器模型の評判が良く、多くの方が訪れてくれました。感謝。

■連絡先：

山村まゆみ TEL&FAX 045-954-5492

世界エイズ会議セックスワーカーズネットワーク

■主催：SWASH

性的サービスを提供する仕事をしている人たちの健康と安全のために、当事者が中心となって活動するグループ

■内容：

7月11～16日に行なわれたバンコク国際エイズ会議でのセックスワーカープログラムでは、世界20カ国から100人を超えるセックスワーカーが集まり、セックスワーカー会議、UNAIDSリーダーとのミーティング、デモ、記者会見、ステイトメントの発表などが行なわれた。ワークショップでは、セックスワーカープログラムでコーディネーターを務めたAPNSW(Asia Pacific Network of Sex Workers)のKhartini Slamahさんとともに、映像を交えながらプログラムの全容を報告した。現在、各国政府が準備、実施している人身売買禁止の法整備や100%コンドーム使用プログラムが、セックスワーカーコミュニティの中で国際的に問題になっている。セックスワーカーのHIV予防の取り組みや人権に、どう影響するのか。エイズ会議で議論になった点を紹介し、日本でどう活かすべきかを話し合った。会場からの意見では、日本で働く外国人の移住労働者のセックスワーカーへのアプローチの具体化の方法についての難しさや、人身売買禁止法が国際組織的犯罪防止条約におけるテロ取り締まりの一環として浮上してきた経緯から、その有効性/実効性についての懸念などが出されるなど、国内利権に留まらないグローバルな観点からの今後の日本での運動の展望を導き出した。

■連絡先：

TEL&FAX 03-3463-3304 E-mail:ykaname@mb.infoweb.ne.jp

http://www.swashweb.com/ 代表者氏名 要友紀子



今、小中高校生に読まれている本・雑誌・コミック等を参考資料として見てもらいながら...



■展示場

みんなの気になる性のこと

■主催: アジアの女性と子どもネットワーク

アジアの中でも弱い立場にある女性と子どもの権利を守るため、学校建設・就学支援・AIDS予防啓発活動などを中心に活動しています。

■展示内容:

2001年に横浜市内の中学2年生と高校2年生の生徒と保護者に実施した意識調査の結果をまとめたパネルを展示しました。学校で行われている性教育はどのような内容なのか・性の情報をどこから得るか・などの質問に対する回答を男女別あるいは親子で対比したグラフなどで表し、今後の学校や家庭での性教育に何が必要なのかを考えていただきました。また、アジアの子どもたちとHIV/AIDSについても最近の新聞記事などをまとめたパネルを展示し、多くの方に興味を持って見ていただきました。今回は展示と一緒に、タイの山岳民族の美しい刺繍を再利用した商品を販売させていただきました。山岳民族の状況をお話しながら商品を手に取っていただき、多くの方に興味を持っていただきました。

■連絡先:

〒231-0015 横浜市中区尾上町3-39 尾上町ビル9F YAAIC内
TEL&FAX 045-650-5430 E-mail: awc@h6.dion.ne.jp
URL: <http://www.awcnetwork.org> 代表者名 マリ・クリスティーヌ



質問に対する回答を男女別あるいは親子で対比したグラフなどで表し...

キルト展「共に生きる社会をめざして…」他

■主催: 特定非営利活動法人HIVと人権・情報センター

1988年に大阪で感染者とその仲間たちによって設立された、日本で最初のAIDS/NGO。全国規模で活動をし、現在は8支部ある。感染経路を区別せず、HIV/AIDSに関わるすべての人々を支援し、あらゆる人々の人権が守られる共生社会を築くことを目指している。

■展示内容:

メモリアルキルトの展示、書籍・グッズの販売、団体の活動紹介、パンフレットの配布。今年は初日に飯島愛さんの講演があったためか、多くの方が2日目以降も来場しました。展示内容としては、今年もメモリアルキルトを展示し、多くの書籍やグッズを販売しました。特にレッドリボンはもちろん、それ以外にもレインボー(セクシュアルマイノリティの方々に理解を示す意味)に関心を示す方もいました。また、来場された方も高校生や行政やNGO関係者、医療従事者、教員など様々でした。多くの方がAIDSに関心を示し、共に取り組んでいることを感じ取ることができた2日間でした。ありがとうございました。

*「AIDSをどう教えるか(第2版)」解放出版社 五島真理為/尾藤りつ子著

*「感染者の手記」他 HIVと人権・情報センター

* 感染者向けハンドブック「栄養と滋養」「健康は健口から」

他にも多数書籍やグッズあり。

■連絡先:

〒101-0047 東京都千代田区内神田1-2-2 吉田ビル2F
TEL: 03-5259-0622 FAX: 03-5259-0643
E-Mail: tokyo@npo-jhc.com <http://www.npo-jhc.com>



■ 展示場

ポスター展「わたしの目」

■ 主催: 東京ビジュアルアーツ

■ 展示内容:

私たちは、写真や映像、デザイン等を専門として学ぶ専門学校です。展示ブースで初参加しました。今回、デザインを学習テーマとしている学生達が、「ものづくり」を通じて「AIDS」と向き合いました。「制作する」ということは、集中力や創造性を今回のテーマ「AIDS」に向けること。こうした大切な時間に自分の「性意識」を含める結果となりました。それは、「AIDS」という入り口から自分自身の「性」や愛、SEXに対する認識、そして現実「そこにあるAIDS」を見つめることです。心の動きを感じ、そして表現する行為が制作者本人の人間性にも役立つことを信じています。今回の試みは、「AIDS」に向き合うための新しい可能性を含めているのではないのでしょうか。そして、社会と性に敏感な若者層に「視覚」を通じて、「体感」を通じて、何かの投げかけが出来るように思います。私達はこれからも良い発表の場所を探しています。より良いメッセージが伝えられるよう、これからも環境や外部との関係を充実させてゆきたいと考えてます。どうぞ、これからも私達の作品にご期待ください！

■ 連絡先:

専門学校 東京ビジュアルアーツ 〒102-0081 東京都千代田区四番町11
TEL 03-3221-0206 FAX 03-3221-0243



「制作する」ということは、集中力や創造性を今回のテーマ「AIDS」に向けること。

展示－エイズ知識の啓発普及関係

■ 主催: (財) エイズ予防財団

(財)エイズ予防財団は、エイズ知識の啓発普及、国際協力、相談、調査、研究、研修を行っています。またエイズストップ基金の運営も行っています。

■ 連絡先:

財団法人エイズ予防財団
〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-23-11 寺山パシフィックビル4階
<http://www.jfap.or.jp/>

パネル展示「AIDS文化フォーラム10年の歩み」

■ 主催: かながわレッドリボンプラザ (横浜YMCA)

レッドリボンプラザは神奈川県の実施事業として、横浜YMCAが行うHIV/AIDSの予防啓発事業です。主な事業内容は、レッドリボンニュースの発信、エイズボランティア育成講座、種々の情報提供と図書・ビデオなどの貸し出し、エイズ理解教育活動、様々な団体が企画する啓発イベントへの協力などです。

■ 展示内容:

パネル展示「AIDS文化フォーラム、10年の歩み」

AIDS文化フォーラムの歩みは、かながわレッドリボンプラザの歩みでもあります。10年間の流れ－ねらい・プログラム内容・参加者推移・それぞれのハイライトを追いつつ、これまでの働きを検証するパネル展示を行いました。その時代時代の社会背景なども読みとれ、大変興味深いものとなりました。この10年間の歩みによって、HIV/AIDSに対する意識がどれほど変化し、状況が改善されたのか計りがたい側面がありますが、「継続は力なり」地道に活動を進めていきたいと思えます。

■ 連絡先:

かながわレッドリボンプラザ(横浜YMCA内) 大江・田邊
Tel.045-662-3721, Fax 045-651-0169
E-mail:kokusai@yokohamaymca.or.jp



エイズと結核と感染症のなぞ

■主催: ATAC in NARA

■展示内容:

エイズと結核と感染症の謎。エイズ・結核・その他感染症の予防と早期発見と治療のためには病気についてみんなで楽しく学習することです。アンケートを用いた第三者評価。
 展示内容: 1) ATAC (ANTI TUBERCULOSIS ASSOCIATION CONFERENCE) は、結核やエイズやその他感染症をこれ以上広めないために各分野の専門家が集い教育、研究、研修を行うものです。2) 目的に賛同する人は誰でも参加できます。3) 事例のカンファレンスを行う。4) 啓発活動を行う。5) アンケートを取り評価を行う。

■連絡先:

代表者 畠山雅行 FAX 0743-78-9841 連絡先: E-Mail: m-hatake@m4.kecn.ne.jp



難民キャンプ等の資料展示・活動報告

■主催: 国境なき医師団

国境なき医師団(MSF)は、1971年に設立された営利を目的としない国際的な民間の医療援助団体です。

■展示内容:

1階の展示会場に来場した人々に国境なき医師団(MSF)について説明した資料を配布し、団体の活動内容を紹介した。その他、MSF日本が取り扱う物品の販売、募金箱の設置を行いました。配布資料: パンフレット・ニュースレター(69号、73号、74号)・子どもブックレット・難民キャンプ展フライヤー・ガイド付きグループ見学の案内・活動報告書・物品販売申込書

■連絡先:

〒161-0033 東京都新宿区下落合2-4-10
 TEL 03-5988-0560 FAX 03-5988-0561 URL: <http://www.msf.or.jp>

「セーファーセックスについて息子と話題にしてみる」とお話になられていたお母さん...

YAAIC活動紹介・展示

■主催: 横浜AIDS市民活動センター

エイズに関する情報提供、ボランティア活動をサポートする平成7年7月に開設した団体。

■展示内容:

エイズに関心はあるけどどこで情報収集してよいかわからないという人、関心持ち始めの人、訳もわからず来場した人など、ひっくるめて啓発できるのが、YAAICがフォーラムへ参加する一番のメリットです。今回の展示では、YAAICで作成しているコンドーム用のハードケース「オーケース」や小冊子を配布するなど、YAAICの活動を紹介させていただきました。期間中はYAAICのスタッフのほか、YAAICマスコットの「コム」も参加しました。(ブースに鎮座する「コム」の姿に、しばしば来場者の目も釘付け(?))コンドームケースの妖精「コム」の神通力のおかげか(?!)、600個以上の「オーケース」を配布することができました。県外からご来場されたボランティアや行政関係者の方、「これまでエイズの予防などまったく関心がなかったが、セーファーセックスについて息子と話題にしてみる」とお話になられていたお母さん、展示していたペニス模型を手を持ってしげしげと真剣な眼差しで観察していた2人組の女子大生(「オーケース」も持って帰ってくれました。)など、多くの方に関心を持っていただけて良かったです。

■連絡先:

〒231-0015 神奈川県横浜市中区尾上町3丁目39番地 尾上町ビル9階(JR関内駅北口徒歩1分)
 TEL 045-650-5421 FAX 045-650-5422
 URL: <http://www.yaaic.gr.jp> E-mail: info@yaaic.gr.jp



※写真と記事は関連していません。ご了承ください。

■ 展示場

展示・映像

「あなたはコンドームをもっていますか？」

■ 主催: ban rom sai ・タイHIV感染孤児院施設

1999年11月、タイ チェンマイ市の郊外ナンプレー村に開設したHIV感染孤児のための生活施設です。

■ 展示内容:

「あなたはコンドームをもっていますか？」 HIV感染孤児施設バーンロムサイの資料、ニューズレター配布をはじめオリジナル商品や書籍の販売、活動内容の展示、映像による紹介。HIVに感染した子どもたちと生活をともにするバーンロムサイだからこそ、「正しいエイズの知識をもってください！」と伝えたいと考え、最初の行動として女性が気軽にもてるコンドームを作りました。名づけて「Miss Condom」。自分自身のために、パートナーのために、コンドームを使うことは今やマナーと考え、そんな意識をまず日本の女性たち自身から広めてほしいという思いでメッセージを発信。また寄付だけに頼らない運営自立と将来子ども達の職業選択肢の一つとしての「家業」となるべく、バーンロムサイは染色・織りでオリジナルプロダクト生産をスタートしています。今回はホームプロダクトの一部も販売しました。

■ 連絡先:

Ban Rom Sai 23/1 Moo4 T.Namprae A.Hangdong Chiangmai 50230 Thailand

Tel: (66) 053-427434

E-mail: romsai@loxinfo.co.th URL: <http://www.banromsai.gr.jp>

Ban Rom Sai Japan

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-49-8-102 TEL 03-3499-0227

E-Mail: smile@blue.ocn.ne.jp



自分自身のために、
パートナーのために、
コンドームを使うことは
今やマナー....。



ポストカード書籍展示・活動紹介他

■ 主催: AIDSカスタネット倶楽部

AIDSカスタネット倶楽部」がやろうとして掲げるもの 1、エイズ情報の収集と共有化 2、その評価と検討 3、疑問の表出と批判の展開 4、図書、映画、ビデオの紹介 5、イベント広報、報告。学園祭などの協力 6、資料、ビデオ等貸出し業務(会員制/個人会員2千円・団体会員1万円) 7、「AIDS在宅援助基金」づくり 8、チャリティーの企画、開催。バザー。 9、エイズメッセージカード製作、販売 10、患者、感染者やその周辺の人たちの声や思いの伝達◎「AIDSカスタネット倶楽部」がしないこととして掲げるもの◎ 1、コンドームの配布活動 2、レッドリボンの普及、配布活動 3、官民一体なるボランティア活動

■ 展示内容: エイズメッセージカード、キースヘリングのポストカード、美術家たちによるチャリティー作品のオリジナルコースター、さらにはエイズ関連書籍など展示即売するとともに「AIDSカスタネット倶楽部」のこれまでの活動などを簡単に紹介しました。また、エイズメッセージカードや出版図書の案内チラシの配布や新企画として試作した介護用T字帯(越中ふんどし)の紹介もしました。T字帯については販売もしたのですが、結局一枚も売れませんでした。しかし、「赤フンにしたらいいのに」とか「涼しそうでいいわね」とか「浴衣地はごわごわしてないかしら」など感想やアイデアなどボソッと伝えてくださる方もいて、楽しい紹介活動ができました。T字帯は、もともと病院の売店などにガーゼ作りのもので売られている介護用品の一つです。手術の時や妊婦に活用されるようなものでもあり、介護現場では割となじみのあるものですが、ふんどしとかのお祭りのイメージを持たれる人が多いようです。便秘や下痢の人など、おなかを締め付けるゴムよりはひも

でゆったり結わえることのできるT字帯がいいのではないかと思います。夏の通気性についてもそうなのですが、蒸れを減らすことは皮膚疾患においても大変よいことではないかと思います。試作品だったこともあり柄などは浴衣の残り地でこしらえたため、色物や白地のものが用意できなかったのも、改良できれば別の機会にまた広くご紹介できればと思っています。エイズ関連図書については、1990年代半ばまでに発行されたような、少し前の書籍が人気がありました。エイズを巡る状況は、実は10年前と意識的には何も変わっていないか、あるいは継続的な学習意欲が乏しい国民性(?)か、まあ確かにエイズに関しては最近出版される本は少なく、出されていてもハウツー的なものが多いようなので、エイズの時代を生きる視点が多く語られたであろう1990年代の書物が改めて読まれるとすれば、治療的、学術的な点をのぞけば良い傾向ではないかという気がしています。

■連絡先:

名古屋市昭和郵便局94号 AIDSカスタネット倶楽部

TEL&FAX 052-835-6444 E-mail: antetsu@nyc.odn.ne.jp 安藤鉄雄

写真展「普通の人々～エイズという透視図～」他

■主催: 神奈川県衛生部保健予防課

神奈川県では、年に3回のエイズ予防啓発強化月間「かながわレッドリボン月間」で、写真展やその他の展示など、さまざまなイベントを開催しています。

■展示内容:

写真家菊池修氏の写真展「普通の人々～エイズという透視図～」と、かながわエイズポスターコンテスト作品展を行いました。日本で感染者が増えている今、エイズを自分のこととして考えてもらえたらと、日本で感染者の写真を撮り続けている菊池さんに写真展の依頼をしました。今の日本でHIV感染者であることを公表することは、私たちが考える以上に大変なストレスを伴うものです。この写真展が、エイズ文化フォーラムという場で開催できたことはとても意義深いことだったのではないのでしょうか。「かながわエイズポスターコンテスト入賞作品展」では、第12回の入賞作品20点に加え、過去の優秀作品も展示しました。エイズをテーマとしたポスターにさまざまな表現の可能性があることを再認識させてくれます。このコンテストは毎年開催しており、県内に在住・在学・在勤の方は誰でも応募できます。

■連絡先:

神奈川県衛生部保健予防課 エイズ感染症対策班

TEL:045-210-5117 FAX:045-210-8863

映像・ハンドマッサージ・写真メッセージ

■主催: MTV JAPAN & BODY SHOP

■展示内容:

The Body ShopのHIV/AIDS予防啓発のための様々なグッズ展示、HIV/AIDSに関するポラロイドメッセージ展示、リラクゼーションのためのハンドマッサージなどユニークなキャンペーン活動を展開(通常も各店舗やメルマガを通じて実施)。

協働でHIV/AIDSの予防啓発に力を入れているMTV Japanからは、2003年の世界エイズデーにちなんで行われた南アフリカでのエイズ撲滅コンサート「46664」を期間中、上映。著名なミュージシャンやネルソン・マンデラ氏の力強いメッセージが心打った。

■連絡先:

MTV Japan <http://www.mtvjapan.com/top.html>

The Body Shop <http://www.the-body-shop.co.jp/top.html>



著名なミュージシャン
やネルソン・マンデラ
氏の力強いメッセージ
が心打った。



■ 展示場

写真展—エイズ危機・アジアの子どもたち他

■ 主催: 国境なき子どもたち

国境なき子どもたち(KnK)はストリートチルドレンなどアジアの恵まれない子どもたちに対し自立に向けた支援を行なっています。

■ 展示内容: 今回、初めて「AIDS文化フォーラムin横浜」に参加させていただくにあたり、アジアの子どもたちの現状に少しでも関心を持ってもらうことを目的に、若手写真家の渋谷敦志氏の撮影によるカンボジアの青少年の写真パネルをブースで展示致しました。私どもの活動の対象となる路上生活を送る子どもや人身売買の被害に遭った子どもたちは、常に病気や薬物依存の危険にさらされています。エイズ問題が深刻なカンボジアやタイ、ベトナムなどの国々では複雑に絡み合う諸問題が子どもたちをエイズの危険にさらしているとも言え、その対策にはエイズ問題を専門とする機関だけでなく、あらゆる分野で活動するNGOがそれぞれエイズ問題を活動の一環に組み込む必要があるのではないのでしょうか。国境なき子どもたちがカンボジア、フィリピン、ベトナムの3カ国で運営している自立支援施設「若者の家」ではストリートチルドレンや人身売買の被害に遭った子どもなどを対象に、ドラッグやリプロダクティブヘルスをテーマとしたワークショップを実施しています。

■ 連絡先:

特定非営利活動法人 国境なき子どもたち(KnK)
〒162-0056 東京都新宿区若松町33-6 菱和パレス若松町11階
Tel:03-5155-2506 Fax:03-5155-2507 E-mail: kodomo@knk.or.jp
URL: <http://www.knk.or.jp>



人身売買の被害に遭った子どもたちは、常に病気や薬物依存の危険にさらされています。

展示・書籍—HIV感染者の福祉情報他

■ 主催: ライフ・エイズ・プロジェクト (LAP)

HIV感染者・エイズ患者への社会的支援活動を行なう非営利団体(NGO/NPO)として1993年設立。

■ 展示内容: HIV/AIDSに関する最新情報やHIV感染者・患者のための生活福祉情報などを掲載したLAPニュースレターの無料配布・販売をはじめ、活動内容の展示、『ある日ぼくは「AIDS」と出会った〜シミズくんのサポートグループ設立記』(ポプラ社)や季刊「にじ」(にじ書房)等関連書籍の販売、各種資料の配付等を行った。

■ 連絡先: 〒100-8691 東京中央郵便局私書箱490号 TEL 03-5685-9716
FAX 03-5685-9703 E-mail: lap@lap.jp
URL: <http://www.lap.jp/> 代表者氏名 清水茂徳

展示—Jrメンバーのアンケート発表他

■ 主催: ふれきしぶる (ユニセフ支援市民グループ)

ふれきしぶる(ユニセフ支援市民グループ)は、ユニセフ支援活動(街頭募金、写真展、講演会、出前授業など)を始めて8年目、子どもの権利を伝える活動にも力を入れています。

■ 展示内容:

ふれきしぶるミーティングのメンバーが学校でエイズに関するアンケート調査を行い、まとめたものを模造紙にグラフで表しました。

■ 連絡先:

ふれきしぶるTEL/FAX 045-785-9510(西尾) E-mail: flexible@mail.goo.ne.jp
URL: 更新中(「ふれきしぶる」で検索可)



パネル・映像一性とSafer SEX他

■主催:OurPlanet-TV

既存のテレビでは放送しにくいテーマを中心に独自番組を制作し、インターネットで配信する非営利団体です。

■展示内容:OurPlanet-TVが昨年より取り組んでいる、HIV/AIDSを考えるキャンペーン Shooting on Safer SEX では、性とSafer SEXをテーマにしたビジュアル作品を一般より公募し、若者から大人まで139点の作品が集まりました。2004年3月のイベントでコンテストを行い、選ばれた優秀な作品10点ほどを、AIDS文化フォーラムでも展示しました。自由な着想のパネル・映像・ゲームなどの作品は参加者の目を惹き、特に「PARTNER」というゲームに人気が集まっていました。男女6人の若者がどのパートナーを選ぶかによって、どうHIV/AIDSと関わりどう人生を歩むかをゲームにしたもので、小学校高学年以上の子どもが、楽しみながらHIVの基本的知識を身に付けることができる秀作です。フォーラムの後早速、教員の方から購入の申し込みをいただきました。これらの展示物を、今後も様々なにご紹介できるよう、貸し出しも行う予定です。

■連絡先:

〒113-0033 東京都文京区本郷1-11-13 後樂園キャステールビル310
TEL&FAX 03-3814-1160
staff@ourplanet-tv.org URL:<http://www.ourplanet-tv.org>



Tシャツ展示ードメスティックバイオレンス (DV)

■主催:主張するTシャツの会

ドメスティック・バイオレンス(DV)についての啓発活動、地域教育活動、直接支援活動を行っている。

■内容:

「主張するTシャツ」とは、夫・恋人からの暴力(DV)の被害当事者やその家族、友人がDVにたいする思いや気持ちを自分の着ているTシャツに描いたものです。このTシャツから、多くの当事者の主張を知ってほしいと思い展示しています。「どうしてAIDSのイベントなのにDV?」と思う人や、DVという言葉そのものを初めて聞いたという人もいました。たしかにAIDSとDVは一見関係ないようですが、DVには性的な暴力もあり、合意のないセックスや、避妊に協力しないなどで、HIVに感染する可能性が高いのです。また、DVは夫婦の間だけではなく、結婚していないカップル、若いカップル、LGBTI(レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー、インターセクシュアル)のカップルの間にも起こるものです。このようにさまざまな人たちにTシャツを見てもらうことによって、AIDSからDVについて考えてもらう、いいきっかけになったと思います。最終日には参加者の人たちに、実際に主張するTシャツを描いてもらいました。「主張するTシャツ」を見た感想、AIDS文化フォーラムに参加した感想などを自由にTシャツに描いてもらいました。私たちはDVに関するイベントで展示することが多いのですが、今後、このTシャツも展示することにより、DVだけではなく、AIDSについても多くの人たちに伝えていきたいと思っています。

■連絡先:

〒343-0845 埼玉県越谷市南越谷2-14-5 南越谷郵便局留
Tel&Fax:048-989-8676
E-mail:TshirtJAPAN@aol.com
URL:<http://www.ne.jp/asahi/clothesline-japan/tshirt/index.html>

合意のないセックスや、避妊に協力しないなどで、HIV感染する可能性が高いのです。



■AIDS文化フォーラムの11年の歩み ー開催の概要と経緯ー

開催年	1994年	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年
回	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回
会場	神奈川県国際交流協会			かながわ県民センター							
開催日数	8日間	3日間									
テーマ	1. 市民と海外NGOによるAIDS会議 2. ともに生きる 3. ともに生きるから連帯へ 4. 未来へのつどい 5. エンパワメントー自立と協働に向けて					6. いまを生きる 7. いま一人ひとりができること 8. " 9. つながるつながる 10. AIDSこれまでの10年、これからの10年 11. いのちー市民が続けるAIDSへの取組み					
特徴	感染経路を問わず、AIDSとそれを取り巻く状況を、多様に、対等に、文化の視点で考えていく										
プログラム数	58	31	34	72	76	70	64	72	81	74	83
入場者数	4,305	2,200	1,600	4,607	5,694	3,240	3,801	3,946	4,808	4,624	6,031
話題/社会	1. 市民のエイズ会議/国際AIDS会議開催 2. 母親が語る薬害エイズ/薬害報道の増加 3. 性風俗とAIDS/薬害/薬害エイズ和解 4. 映画・秋桜/カクテル療法 5. TV・神様もう少しだけ/障害者認定					6. 複数作家の写真展/ビル解禁・感染症予防法 7. 女性プログラム/女性用コンドーム・薬物乱用 8. バリアについて考える/ハンセン病 9. 国際NGO・国際神戸会議/SARS 10. 10年の振り返り/国際エイズ会議の延期 11. 若者の参加/国際エイズ・バンコク会議					
来場者傾向	地元の市民が中心			全国から参加		医療・教育の専門職増加			国際NGO等幅広く拡大		
広報の特徴	ポスター・パンフレット			プログラムを全国の教育・医療関係機関に配付				ホームページによる広報スタート			
マスコミ	取り上げ大から減少傾向			夏の定番記事として取り上げは定着するも社会的感心は薄れる							
組織委員	エイズに取組む民間団体で構成し、フォーラムの責任を負う										
運営委員	HIV/AIDSに関わる、医療関係者、教育関係者、NPO・NGO、行政の担当者等が個人として参画										
ボランティア	会場運営に市民ボランティアの公募 -小学生から70歳代までの幅広い参加-										
	かながわエイズボランティア育成講座の受講生のフィールドワーク										
	川崎市エイズボランティア講座の受講生のフィールドワーク 夏休み学生ボランティアの増加・チーフボランティア制度										
事務局	横浜YMCA										

1994年/第1回

国際エイズ横浜会議に連動し開催。偏見と差別のみ語られていたAIDSという病気に対し、ボランティアの働きによる新しい市民レベルのアプローチとして高い評価を得ました。

1995年/第2回

「第1回の成果を一過性のものに終わらせること無く、継続して欲しい」という全国のAIDSに関わるNPO・NGOからの強い要望を受け、同じ国際交流協会で3日間開催しました。

1996年/第3回

ボランティア育成講座の修了者が「かながわレッドリボンクラブ」を結成するなど、新たな動きもありましたが、社会的関心は落ちこみ、参加者は大幅に減少し、存在が問われました。

1997年/第4回

フォーラムは会場をかながわ県民センターに移し、会場規模を倍とし、挑戦の年となりました。特筆すべきは、5人のPWAがネットワークを組むために必要な課題等について議論しました。

1998年/第5回

この年はHIV/AIDSの治療薬が増え、HIV感染は慢性病になったと言われはじめました。テレビで放映された「神様、もう少しだけ」の深田恭子さんらがトークで参加しました。

1999年/第6回

ゆったりとした会場構成と時間設定をしましたが、社会のエイズに対する関心は低下し、入場者は半減しました。しかしその一方で全国からの専門職の参加が増え、質が変化した年でした。

2000年/第7回

恋人とのセックスでHIVに感染した北山翔子さんやタレントの岡田美里さんのトーク、女性用コンドーム、ピル、と女性をテーマとしたプログラムが多く組まれました。

2001年/第8回

パラリンピック金メダリストの成田真由美さんとHIVに感染している桜屋伝衛門さんのトークを通して「障害」という視点でHIV/AIDSの問題を改めて考える機会となりました。

2002年/第9回

「国際」をテーマとしたプログラムが増え、自らカンボジアなどでボランティア活動をしている有森裕子さんの話は多くのボランティアが勇気付けられる内容となりました。

2003年/第10回

早坂暁さんがHIV/AIDSを題材に番組を制作するとしたら、と言う設定を参加者と共に一緒に考えました。また様々なプログラムの中で、この10年間の振り返りを行いました。

2004年/第11回

若者が主体のプログラムが増え、発表・展示とも充実し過去最大の集いとなりました。特にエイズに取り組む企業の参加などもあり、展示場は人があふれ、にぎわいと充実を実感しました。

■アンケートから第11回AIDS文化フォーラムを読む

今年も多くの皆さんに会場でのアンケートに協力していただきましたが、その集計結果から、少し、この文化フォーラムの全体像を探ってみました。

1. AIDS文化フォーラムを何で知りましたか?(複数回答もあり)

	8/6(金)	8/7(土)	8/8(日)	合計	割合
新聞	3(1.1)	7(2.1)	0()	10	1.1
ホームページ	37(13.1)	71(21.1)	45(17.1)	153	17.4
ポスター	8(2.8)	9(2.7)	4(1.5)	21	2.4
DM	28(9.9)	29(8.6)	14(5.3)	71	8.1
チラシ	80(28.4)	71(21.1)	50(19.0)	201	22.8
知り合い	61(21.6)	78(23.2)	87(33.1)	226	25.6
その他	59(20.9)	55(16.4)	48(18.3)	162	18.4
無記入	6(2.1)	16(4.8)	15(5.7)	37	4.2
計	282(100)	336(100)	263(100)	881	100

○最大の広報媒体が、口コミという、まさに文化フォーラムらしい結果でした。参加した人が、エイズの事を伝えたくて、身近な人に開催を伝えて、チラシを渡す。受け取った人が次の年の参加者になる。という感じでしょうか。

○インターネットの普及とフォーラムのホームページの充実に伴い、ホームページによる認知が急速に増えている。(参加団体とのリンクによる相乗効果も大きい)

○反省点としては、マスメディアの取り上げが非常に少なく、ただでさえ無関心な人たちへ開催の情報が届いていない。結果

として会場への参加に結びつかなくとも、メディアに乗れば、「AIDSの課題はまだ未解決」というメッセージを伝えられるはず。

2. 参加者の年齢

	8/6(金)	8/7(土)	8/8(日)	合計	割合
10代	45(18.2)	18(6.4)	23(9.7)	86	11.2
20代	45(18.2)	65(23.2)	64(27.0)	174	22.8
30代	42(16.6)	51(18.2)	45(19.0)	138	18.0
40代	57(23.1)	68(24.3)	44(18.6)	169	22.1
50代	40(16.2)	51(18.2)	39(16.4)	130	17.0
60代以上	12(4.9)	13(4.7)	10(4.2)	35	4.6
不明	7(2.8)	14(5.0)	12(5.1)	33	4.3
計	248(100)	280(100)	237(100)	765	100

○今年は、医学生たちの参加も目立ち、若い世代の参加が増え、20代から50代まで、それぞれ20%前後と、非常にバランスとれた世代構成になりました。今後は、情報を最も必要とする10代の参加が増え、同世代の仲間にエイズの事を伝えていってもらいたいものです。

3. 参加者の職業等

	8/6(金)	8/7(土)	8/8(日)	合計	割合
保健医療関係	52(20.9)	93(32.3)	56(23.5)	201	25.9
教育関係	68(27.3)	51(17.7)	37(15.6)	156	20.1
学生	59(23.7)	33(11.4)	57(23.9)	149	19.2
NGO/NPO	8(3.2)	27(9.4)	25(10.5)	60	7.7
その他	39(15.3)	40(13.9)	37(15.6)	116	15.0
不明	24(9.6)	44(15.3)	26(10.9)	94	12.1
計	250(100)	288(100)	238(100)	776	100

○職業の特徴としては、金曜日が教育関係者、土曜日が保健医療関係、日曜日が学生・NPO・その他と、それぞれの集まりやすい曜日があるようです。

○その他の職業としては、主婦、会社員、団体職員、PTA、福祉関係者、マスコミなどがありました。そういう多様な立場の参加者がもっと増えて、それぞれ身近な人たちに伝えていくことが、社会の中でのAIDSの理解を広げていくことにつながるのではないのでしょうか。

4. 参加者の居住地

北海道 東北	北海道	青森	秋田	岩手	宮城 1	福島 3	山形 11		小計 20(2.0)
関東	神奈川 315	東京 111	千葉 36	埼玉 26	茨城 4	栃木 9	群馬 5		506(66.1)
中部 A	愛知 18	静岡 8	山梨 3	長野 7	新潟 3				39(5.1)
中部 B	三重 1	滋賀 1	福井	石川 8	岐阜 3	富山			13(1.7)
関西	大阪 17	和歌山 1	奈良 2	京都 8	兵庫 10				38(5.0)
中国	岡山	鳥取	島根	広島 4	山口				4(0.5)
四国	香川 2	徳島	高知	愛媛 2					4(0.5)
九州 沖縄	福岡 21	大分 4	宮崎 4	熊本	佐賀	長崎	鹿児島	沖縄 4	33(4.3)
無記入	113 (14.8)								合計765(100)

○例年のことですが、全国各地からの参加者がありました。



5. 参加した各プログラムについての意見

○皆さんから多くの感想、意見をいただきましたので、各団体に戻しましたが、その一部は、各団体からの報告に記載されています。

○今回は、全体的に好意的な意見が多く、新しい発見、新しい交流、仲間に出会えた感動などが書かれ、プログラム全体のレベルアップも読み取れました。

6. 今後のエイズ文化フォーラムへの期待

○ほとんどの方から、「継続して」という熱いメッセージをいただき、とてもありがたかったです。「横浜だけでなく、全国各地で…」という要望もありましたが、これには、我々の手法を伝えることで、各地でオリジナルな取り組みが生まれることを願っています。

○「同時に参加したいプログラムが多く重なりとても残念」という意見もありました。これは、報告書やホームページの充実によってバックアップすることもできると思います。また同じプログラムを複数回実施する方法もあるかも知れませんので、今後の検討とします。

○プログラム希望としては、「中年男性が参加するプログラム」や「若者が若者に伝えるプログラム」などが複数書かれていました。どなたか来年この視点でプログラム参加しませんか？

○運営面では、ボランティアの働きを評価してもらえたこと、反面、もっと広報して、このフォーラムを多くの人に知らせて欲しい等が目立ちました。

※フォーラムの運営委員会としては、これらの皆さんの沢山の声に、謙虚に耳を傾けながら、来年に向けて、歩を進めていきますので、どうぞ、応援して下さい。そして、また、お会いしましょう。

(AIDS文化フォーラム運営委員会)



フォーラムの使い方…ご自由にどうぞ。



■「AIDS文化フォーラムin横浜」の考え方

AIDS文化フォーラムは、お互いの資源を持ち寄ることで『思い』を実現する場です。

1. **目的**／エンパワメントすること(多様な価値観と文化を認め集い力を得ます。)バリアフリーな環境をつくること(HIV/AIDSからの学びを活かします。)
2. **経過**／国際会議以降の継続が新たな「気づき」と「やる気」を生んできました。
3. **構成**／さまざまな立場が協働して、このフォーラムを支えます。
4. **経費**／全体運営も参加プログラムも、それぞれが独立採算で実施しています。
5. **市民**／ボランティアとして対等に参画し支え合う幅広い市民のフォーラムです。

■AIDS文化フォーラムの使い方

○医療関係者のために

HIV/AIDSの医療は日進月歩、治療が進む一方で、治療を確実にするためには様々な工夫が必要であることが明らかになっています。毎年、医療の最前線で活躍する医師が参加していますので、最新情報を正確に得るとともに、医療者のネットワークの場として活用してください。

○教育関係者のために

教師の立場だけでなく一人の人間としてHIV/AIDS、「性・生」を総合的に理解できる場です。「思い」を伝えるヒント・スキルを手に入れ、この場で出会う、様々な人と情報から得たエネルギーを、ぜひ、学校の中で、生徒さんたちに還元してください。

○参加団体のために

全国から多彩な人と団体が集まるこの場で、自分達の手法を発表し展示し、その合間に、他団体のコマに参加し、スキルアップと交流を実現する中で、自分達の使命を再確認して下さい。そして、さあこれからも頑張るぞーとエンパワメントする。夏の充電機としてお使い下さい。

○学生のために

旺盛な好奇心で、会場のあちこちに顔をだして、多くの人と出会って下さい。その出会いが将来の財産となるはずです。またボランティアとして参画し、各参加団体の多様な視点を学び、自分自身の問題、生き方の問題としてHIV/AIDSの認識を肌で感じとって下さい。

○感染している人のために

毎年、多くの感染者たちが、講師として、一参加者として参加しています。感染している人は、ある意味HIV/AIDSの専門家です。自分の経験をベースに、他の感染者の様々な経験や、最新の医療情報を手に入れ、日々の生活を組み立てていくための、安心できる支えの場として…

■AIDS文化フォーラムを支えた人たち

○組織委員会

神奈川県内でエイズ問題に取り組む、民間団体の代表者で構成されます。毎年、5月頃から10月にかけて結成されます。「AIDS文化フォーラムin横浜」を主催し、その社会的責任を負います。

メンバー(2004年度):

- ◇横浜いのちの電話 榊原高尋
- ◇横浜YWCA 八木高子
- ◇横浜商工会議所 古田正一
- ◇横浜青年会議所 木下大介
- ◇横浜YMCA 山根誠之(委員長)

○運営委員会

フォーラムを実質的に運営するボランティアの集まりです。医師、保健師、教師、共催・後援(行政)の担当者、ボランティアグループからの参加者、フォーラム大好きでずっと関わりを持っている方...etc いろいろな人がいます。

- ◇運営委員長 岩室紳也
- ◇副委員長 矢部尚美
- 山口ちづこ 高村文子 岡島龍彦 吉永陽子 彦根倫子 金井多恵
- 渡辺享宏 渡辺詢子 長沢勲 千代木ひかる 高橋亮 大江浩

○事務局

- ◇横浜YMCA <http://www.yokohamaymca.org>
- 組織委員会、運営委員会の円滑な運営を助け、年度を越えての継続的な開催を補佐します。11年前にフォーラムを立ち上げる際、呼び掛け人となった横浜YMCAが、継続して事務局を務めています。
- ◇担当:高橋亮・大江浩

○ボランティア

毎年、60～100名のボランティアが活躍しています。小学生から高齢者まで、そして全国から、多くのボランティアが集まってくれました。

阿部茉奈美 有澤香 伊東和子 伊野紗紀 飯野なつみ 伊原光明
 今出賢紀 上田祐子 上田春美 遠藤圭司 岡村嶺 岡村駿 岡村寛
 小川美農里 大久保香弥 大館恵子 葛輝子 川田栄子 北村光二
 小西正隆 小林彩乃 小林由佳 小俣妙子 斎藤志津江 坂井悦子
 酒井怜子 柴田日出子 威莉 高岡亜季 高田由美佳 高梨ありこ
 堂後美晴 豊沢健二 中澤まどか 中澤光江 中村理津 名取豊
 新倉麻美 新田美成子 根岸香奈子 枝誠 畠山雅行 原谷香織
 平田真実 福島佑一 古川英司 堀口貴美子 蒔野絵里子 松尾知子
 松崎薫 水尾真規 三宅やよい 吉川るい子 吉永さやか 吉永千尋
 吉永重成 若林奈緒 渡辺弥生 磯部彩子 鈴木景子 仲地奏子
 小林美緒 川嶋理恵 森住孝明 熊澤祐紀 端山光 濱村嘉允 野澤展
 岩室享子 新原理恵 上野薫 権代みのり 重田友恵 久保結貴
 村石早紀 彦根紀子 岩本雅子 多田由加里 丁子谷菜央 友廣高也
 高具雄一 平野絹絵 井筒洋一 田邊朋美



あなたの参加を待っています!



〒231-8458
横浜市中区常盤町1-7
横浜YMCA 内
AIDS文化フォーラム事務局
電話 045-662-3721
FAX 045-651-0169
<http://www.yokohamaymca.org/>
AIDS/

2005年8月！
また、
お会いしましょう！！



■ボランティアしませんか？

◇フォーラムは、市民による、市民のための手作りフォーラムです。毎年小学生から年輩の方まで、70～80名のボランティアが活躍しています。

◇ボランティア募集は、毎年5月くらいから、ホームページ上やチラシなどでご案内しています。

◇内容は、講座ボランティア(会場準備/整理/受付など)、受付ボランティア(受付での案内・アンケート回収)などです。ぜひ一緒にフォーラムを作りましょう。

■参加(発表・展示)してみませんか？

◇エイズに関する視点をもった内容であれば、個人、グループ、NPO、NGO、行政、医療、保健、教育機関、どなたでも参加できます。

◇直接エイズに関係しない内容でも、差別や人権、社会問題など、エイズ問題の啓発・学習などに役立つ内容は参加可能です。(例:DV、ドラッグ、ハンセン、etc… ご相談ください。)

◇発表形式は自由。講演、ワークショップ、展示、演劇、映像、討論会、カウンセリング、etc…。

◇エントリー費は無料。手弁当、持ち寄り型フォーラムです。

◇毎年3月くらいからホームページ、チラシで募集しています。

※フォーラムの主旨に沿わないと判断した場合はお断りしています。特にフォーラムを利用して政治または宗教活動の勧誘、営利目的、古い因習や差別的考え方に基づいた参加は固くお断りいたします。

※ただし、営利企業の商品発表などでも、エイズ情報の提供に役立つと判断される場合は参加可能です。また企業のフィランソロピー(社会貢献)活動としての参加は歓迎です。

※詳細はホームページをご覧ください。

■2005年フォーラム開催予告!!

「第12回 AIDS文化フォーラムin横浜」

期日:2005年8月5日(金)～7日(日)

場所:かながわ県民センター(横浜駅西口徒歩5分)

◇横浜駅西口の会場にぶらっと来てみてください。入場無料、誰でもOK。

◇「ボランティアやってみようかな」という方は、事務局の横浜YMCAに問い合わせせてね。

◇エイズ/HIV啓発活動などを行っている皆さん。皆さんの活動を広げてみませんか？

◇PWHHAの皆さん、一緒に考えましょう。

◇学校の先生、ぜひ来てください。時には生徒と一緒に学んでみましょう。

◇お医者さん、保健師さん、薬や医学の最前線レポートもあります。

◇人権問題、セクシュアリティ、社会問題などに興味のある方もどうぞ。「文化」の2文字はエイズを通してあらゆる人間活動に関わっていきたいという願いです。